

令和 3 年度 活動報告書

熊本県地域医療支援機構 / 熊本大学病院 地域医療支援センター
熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

令和 3 年度 活動報告書

熊本県地域医療支援機構 / 熊本大学病院 地域医療支援センター
熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座



もくじ

I はじめに

1. 熊本県地域医療支援機構理事長あいさつ 1

2. 地域医療支援センター長あいさつ 2

3. スタッフ一覧 3

2 熊本県地域医療支援機構
(熊本大学病院 地域医療支援センター)

1. 活動概要 4

2. 活動報告

Ⅰ. 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師の
キャリア形成支援 5

Ⅱ. 地域の医療提供体制の確保に向けた支援 7

Ⅲ. 県内医療機関等との連携協力関係の構築 8

Ⅳ. 医師に関する求人・求職などの情報発信と相談対応 8

Ⅴ. その他 9

Ⅵ. 女性医師キャリア支援 14

3 地域医療・総合診療実践学寄附講座

1. 活動概要 20

2. 年間活動実績 20

3. 活動報告

Ⅰ. 地域医療支援（診療支援） 21

Ⅱ. 調査・研究 21

Ⅲ. 教育活動 22

● 卒前教育（カリキュラム外教育） 22

● 卒前教育（カリキュラム内教育） 22

● 卒後教育（初期臨床研修・専門医研修） 27

Ⅳ. 専門医資格修得後のキャリア支援について 30

Ⅴ. 講演会 30

4. 専攻医の声 32

4 教育拠点

＜くまもと県北教育拠点＞

1. 活動概要 34

2. 年間活動実績 34

3. 活動報告

Ⅰ. 教育活動 35

Ⅱ. 診療 37

Ⅲ. 年間診療報告 37

＜天草教育拠点＞

1. 活動概要 38

2. 年間活動実績 38

3. 活動報告

Ⅰ. 教育活動 38

Ⅱ. 診療 39

Ⅲ. 年間診療報告 39

Ⅳ. セミナー 39

＜河浦教育拠点＞

1. 活動概要 40

2. 年間活動実績 40

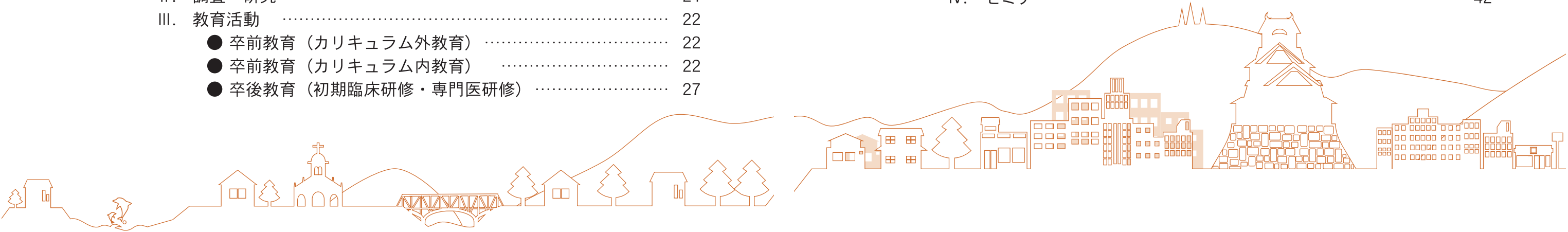
3. 活動報告

Ⅰ. 教育活動 40

Ⅱ. 診療 41

Ⅲ. 年間診療報告 41

Ⅳ. セミナー 42



I はじめに

1. 熊本県地域医療支援機構 理事長あいさつ



熊本県地域医療支援機構 理事長
熊本大学病院 病院長

馬 場 秀 夫

皆様方には、平素より「熊本県地域医療支援機構」、「地域医療・総合診療実践学寄附講座」及び「地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座」の取り組みに、多大なご支援とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。この度、令和3年度の活動報告書を作成致しましたので、ご一読いただければ幸いに存じます。

熊本県地域医療支援機構は、平成25年12月に設置され8年目が経過しました。「地域医療・総合診療実践学寄附講座」は、設置から6年が経過し、令和4年度以降も継続することとなりました。また、「地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座」につきましても、設置より3年が経過しましたが、引き続き寄附講座としての事業を展開していくこととしております。

さて、私は昨年4月に熊本大学病院長を拝命し、県内の主な医療機関をお訪ねする機会を得ました。熊本県の医師数は全国的に多いとよく言われますが、熊本市は人口10万人当り医師数419名、一方熊本市外は約190名と医師の偏在が顕著であり、まだまだ地域の医師不足は解消されていないと実感しました。また、地域においては、深刻な人口減少と高齢化に加え、昨今のコロナ渦の中、地域住民に適切な医療サービスを提供するために、各医療機関非常に苦勞されている実態を肌で感じてまいりました。

地域における持続的かつ適正な医療提供体制を確保するために、医師を派遣する立場の熊本大学病院と、医師の地域偏在の解消のための業務を実施する熊本県地域医療支援機構の長として、熊本県と連携して取り組みを進める必要があることを強く心に留めたところです。

新型コロナの猛威は3年度も引き続き、地域医療支援機構事業、寄附講座事業についても昨年度以上に当初の計画の中で中止、変更、縮小といった決断をせざるを得ない状況もあり、十分な取組みが出来なかった面もありました。しかしながらオンライン配信等々の工夫をこらし、事業の歩みを止めることなく、できることを一つ一つ着実に取組んでまいりました。

本県の地域医療を取巻く状況が厳しい中、「熊本県地域医療支援機構」、「地域医療・総合診療実践学寄附講座」、「地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座」が連携して、それぞれの役割を果たしながら、(1)地域医療を志す医学生や地域医療に従事する医師のキャリア形成支援、(2)地域の医療提供体制の確保に向けた支援、(3)学生に関する地域医療マインドの涵養、(4)総合診療医の育成、(5)地域医療拠点病院を核とする圏域の医療機能の向上、(6)新専門医制度における修学資金貸与医師等のキャリア形成の支援等について、継続的に更に推進していくこととしています。

今後とも熊本県、医師会、市町村並びに地域医療関係者などの関係諸団体との連携を一層強化し、県内各地のニーズに沿った地域医療が提供されるよう努力してまいりますので、変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(令和4年3月吉日)

5 熊本県医師修学資金貸与制度

1. 地域医療ゼミ
Ⅰ. 概要 43
Ⅱ. 活動報告 43
2. 令和3年度卒業生 45

6 地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座

1. 活動概要 49
2. 活動報告 50

7 業績

1. 地域医療支援センター 53
2. 地域医療・総合診療実践学寄附講座 54
3. 教育拠点 56
4. 総合診療科医局員・専攻医(総合診療専門研修プログラム) 57

8 おわりに

1. 教員から 58
2. 事務から 65
3. あとがき 68

2. 地域医療支援センター長あいさつ



熊本大学病院 地域医療支援センター センター長
熊本大学病院 総合診療科 教授

松 井 邦 彦

熊本県地域医療支援機構／熊本大学病院地域医療支援センター、熊本大学病院地域医療・総合診療実践学寄附講座、および熊本大学病院地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座の、令和3年度の報告書をお送りいたします。ご高覧いただければ幸いです。

新型コロナウイルス感染症の流行が及んだこの2年間、私たちの生活様式は大きく変わりました。地域枠入学の熊大生を主な対象とした夏の地域医療特別実習は連続の中止となり、その他の様々な活動についても縮小や中止せざるを得ない状況が続いています。そのような中、熊本県医師修学資金貸与制度の第1期生の方々は、令和3年度には卒業後7年目を迎え、医師としてのキャリアを確実に積み重ねつつ、義務の償還も着々と行っていると考えています。他県と比べ医師数としては比較的恵まれている熊本県ですが、熊本市内への集中は以前より言われているところであり、県内の地域医療の現場では、医師不足はまだまだ深刻です。しかしながらこの医師修学資金制度や地域医療連携ネットワークの取り組みも含め、県や熊本大学病院が長年にわたり行ってきた様々な対策や努力の甲斐あって、県内地域で活躍される方々は確実に増え、その効果が実感されるまでになりつつあります。

私たち地域医療支援センターの責務には、まず医師修学資金貸与生の方々のキャリア支援があり、その上で義務の償還を円滑に進めていただくことができるよう、これらの両立を目指した支援が求められています。それには対象者ご本人のみならず、熊大病院の各診療科、そして県内地域の施設の皆さん方のご協力と信頼関係の構築が不可欠であり、それらの上に成り立つものであると考えています。私たちは、熊本県医療政策課のご指導とご支援を受け、それぞれの関係者の間に立ち調整する役割を担っています。その重要性は、対象者数の増加と共にさらに増しつつあると思います。新型コロナウイルス感染症の流行は繰り返し、新しく導入される働き方改革がどのように影響するかも含め、県内地域医療の不安要因は多くあります。そのような中でも、私たちができること、やるべきことを一つずつ行うことで、解決を目指したいと思います。道のりは長く続きますが、今後ともご指導くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

3. スタッフ一覧

◆ 熊本県地域医療支援機構(熊本大学病院 地域医療支援センター)

松井 邦彦 地域医療支援センター長 総合診療科 教授	谷口 純一 地域医療支援センター副センター長 (地域医療・総合診療実践学寄附講座特任教授)
後藤 理英子 特任助教 糖尿病・代謝内分泌内科	高柳 宏史 特任助教 総合診療科
古賀 義規 客員研究員 (御所浦診療所所長)	片岡 恵一郎 客員研究員 (小国公立病院病院事業管理者)
松岡 大智 地域医療支援コーディネーター	若杉 秀作 地域医療支援コーディネーター
高塚 貴子 女性医師復職支援コーディネーター	尾方 千穂 事務補佐員 横手 友紀子 事務補佐員

◆ 熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

谷口 純一 特任助教 総合診療科	北村 泰斗 特任助教 総合診療科
佐土原 道人 特任助教 総合診療科	山並 美緒 事務補佐員 山口 香 事務補佐員

◆ くまもと県北教育拠点(くまもと県北病院)

田宮 貞宏 熊本大学非常勤講師 総合診療科	小山 耕太 熊本大学非常勤講師 総合診療科
久保崎 順子 特任助教 総合診療科	

◆ 天草教育拠点(天草地域医療センター)

松本 朋樹 特任助教 総合診療科	中村 孝典 特任助教 総合診療科
---------------------	---------------------

◆ 河浦教育拠点(河浦病院)

鶴田 真三 特任助教 総合診療科

◆ 熊本大学病院総合診療科医局員

武末 真希子	松田 圭史	空田 健一	平賀 円
--------	-------	-------	------

◆ 専攻医(熊本大学病院総合診療専門研修プログラム)

永田 洋介 後期研修医4年目	早川 香菜美 後期研修医4年目	下地 徹 後期研修医3年目
本田 宏介 後期研修医2年目	松岡 隼平 後期研修医1年目	

2 熊本県地域医療支援機構 (熊本大学病院 地域医療支援センター)

1. 活動報告

◆ 活動概要

熊本県地域医療支援機構は、熊本県と県から機構業務の一部を委託された熊本大学病院が協力して運営を行っています。当機構では、本県における医師の地域偏在を解消することを目的として、県内における医師不足の状況等を把握・分析し、医師のキャリア形成支援と一体的に、医師不足医療機関の医師を確保するため、様々な支援事業を実施しております。

令和3年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの事業において活動の縮小を余儀なくされた面もありました。しかしながら、熊本県医師確保計画(令和2年度～5年度)に基づき、医師修学貸与学生及び地域で勤務する医師が、地域で安心して勤務しながらキャリアを形成できるよう、一人一人に対するきめ細やかな支援を行うための体制の強化を図る観点から、コロナ禍にあっても熊本県から業務を委託された事業については、熊本大学病院が県と協力し、着実な事業の実施に努めてまいりました。特に面談・相談業務やセミナー等においてウェブ会議システムを活用して移動制限の影響の最小化と効率的かつ効果的な相談業務の充実を図るとともに、地域の医療機関における取り組みや地域医療の重要性を多くの人に理解いただくために引き続き広報誌を発行するなど啓発活動の充実に努めたところです。

また、専門研修に進む卒後3年目以降の貸与医師等に対しては、専門研修プログラム従事前知事指定病院の第2グループの病院で総合診療「特別研修プログラム」に参加して義務の償還を優先することを選択できる体制を構築し、キャリア支援の充実強化にも努めております。さらには、総合診療医育成のため、地域医療・総合診療実践学寄附講座と連携して、令和3年度から河浦病院に総合診療の新たな教育拠点を設置し、指導医を派遣し、地域での医療活動に従事しながら、専攻医の教育や研修医、学生の実習等の指導を行っています。

その他、女性医師キャリア支援においても地域を回り、地域医療に携わる女性医師と面談する中で、多くの課題や悩みを把握し、適切にかつ必要な助言を行い、熊本県と情報の共有を図っています。

【主な取り組み】

- ① キャリア形成プログラムに基づく修学資金貸与学生及び医師への面談等によるきめ細やかな支援(一人ひとりの状況に応じた助言、相談対応等)
- ② 貸与医師及び貸与学生全員に貸与制度及びキャリア形成プログラムの周知徹底
- ③ 医師修学資金貸与医師に係る翌年度の勤務先の調整
- ④ 医師が不足する医療機関への診療支援・研修医等教育支援
- ⑤ 熊本県地域医療連携ネットワークの構築に向けた全体調整
- ⑥ 女性医師のキャリア支援(就業継続及び復職支援等)
- ⑦ 地域医療支援機構講演会開催
- ⑧ 地域医療支援機構広報誌「COCODE！（ココデ）」の発行

2. 活動報告

① 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師のキャリア形成支援

- 1 キャリア形成プログラムに基づく修学資金貸与学生及び医師へのきめ細やかな支援(一人一人の状況に応じた助言、相談対応等)

— 熊本県医師修学資金貸与医師・学生の面談 —

- 医師修学資金貸与医師については、47人全員を対象に令和3年7月～8月に実施し、キャリア形成と義務履行の両立に関する本人の考えを聞き取り、本人の経験年数に応じて、必要なアドバイスを行いました。
- 医師修学資金貸与学生については、40人全員を対象に令和3年5月に面談を実施し、将来の希望の聞き取りや学生生活の状況等を聞き取り、生活面、学習面等個人ごとに必要な助言を行いました。また、6年生に対しては、将来のキャリアプラン等を聞き取り、進路について個別具体的なアドバイスを行いました。
- また、医師、学生全般に対して、修学資金貸与制度の周知、キャリア形成プログラムの内容の周知等を図りました。

- 2 熊本県医師修学資金貸与条例に規定する知事指定病院等における医師不足の状況等に関する調査・分析、総合診療医など地域で必要とされる医師に関する情報提供等

- 今年度は、昨年度実施した知事指定病院調査の回答結果から、基本領域の診療科ごとの通院患者数、入院患者数、医師数、各医療機関の常勤医の年齢分布等を整理して、第1グループ、第2グループ、第3グループそれぞれの医師の充足状況等の把握、グループ毎に必要な医師等について、状況を把握し、県に報告しました。

- 3 医師修学資金貸与医師に係る派遣計画案及びキャリア形成プログラムの作成、負担軽減策の実施

- 貸与医師及び貸与学生全員に面談時に貸与制度及びキャリア形成プログラムについて説明して周知するとともに説明会を実施しました。
- キャリア形成プログラムの更新において、更新案に関する修学資金貸与医師、学生の意見交換会を実施しました。県では、これらの意見も反映した更新プログラムを作成しました。
- 修学資金貸与医師の勤務先決定については、「熊本県医師修学資金貸与医師キャリア形成プログラム」において、県内各地域における医師不足の状況や本人の意向、研修先・勤務先の状況等を踏まえ、県及び地域医療支援機構において勤務先を調整した後、熊本県地域医療対策協議会で協議・決定することとされており、当機構としては、この基本的な考え方を踏まえて、来年度の修学資金貸与医師の勤務先案を作成し、熊本県地域医療対策協議会で原案通り承認されました。
- この結果、令和4年度は、医師業務3年目以上の修学資金貸与医師42人のうち、地域の病院での勤務者26人と3年度(18人)より8人増加した。また、地域医勤務者のうち13人が、へき地の病院や診療所である第2グループ、第3グループの知事指定病院で勤務することとなっています。
- また、13年前に本県に医師修学資金貸与制度が創設されて以来これまでのところ、県の同意のないまま義務を履行せずに制度からの離脱した者は一人もおりません。

- 4 医師修学資金貸与医師の専門研修プログラム修了後における派遣ルールづくり

- 貸与医師が選択したすべての診療科において、キャリア形成プログラムに基づき、出来る限り早期に義務年限の償還が果たせるよう各診療科と協議しながら、勤務先の決定を行うこととしています。

5 初期臨床研修及び新専門医制度(総合診療専門医の養成支援)への対応

● 初期臨床研修への対応

本学の学生及び将来初期研修を熊本県内の医療機関で実施することを希望する県外の学生を対象に、県が主催する県内の基幹型臨床研修病院の合同説明会を当機構においてリモートにより(ZOOM)実施しました。

● 新専門医制度(総合診療専門医の養成支援)

オンラインで開催される全国会議等で、総合診療専門研修プログラム紹介のPRポスター・チラシをウェブ会議に掲載したり、本学内の専門研修プログラム説明会でPRするなど、地域医療・総合診療実践学寄附講座と連携して、プログラムの紹介に努めました。今回、当プログラムに1人の参加がありました。また、総合診療科の専攻医に対してテレビ会議システム等を利用した合同カンファレンスやレジデントデイを実施し総合診療医としての能力向上に必要な助言、指導を行っています。

6 総合診療専門医及び指導医の養成、確保の支援

● 地域医療・総合診療実践学寄附講座との連携で、地域医療・総合診療に係る3つの教育拠点(天草、河浦、くまもと県北病院)において専門医・指導医の育成の充実を図っています。新専門医制度の適用が始まった今年度、総合診療専門医が4人誕生しました。

7 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度の運営

- 医師修学資金貸与医師のキャリア形成支援として「地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度」への登録を推進しました。
- 貸与医師が義務の履行とキャリア形成の両立が図られるように、各診療科と県、地域医療支援機構が連携して取り組むこととしています。
- また、地域医療ゼミ等を活用して、熊本県修学資金貸与制度、キャリア形成プログラムについて、貸与医師・学生に繰り返し説明し、周知に努めています。

【熊本県医師修学資金貸与人数一覧 (2022年3月現在)】 (単位:人)

区分	年数・学年	地域枠	一般枠	県外枠	計	男	女
後期研修 /地域勤務	7年目	－	3	－	3	2	1
	6年目	4	1	－	5	3	2
	5年目	4	4	－	8	7	1
	4年目	5	2	－	7	4	3
	3年目	5	4	－	9	7	2
	小計	18	14	－	32	23	9
臨床研修	2年目	4	6	－	10	8	2
	1年目	5	0	－	5	3	2
	小計	9	6	－	15	11	4
在 学 生	6年生	8	3	1	12	8	4
	5年生	4	1	0	5	1	4
	4年生	6	1	0	7	1	6
	3年生	5	0	1	6	2	4
	2年生	5	－	－	5	4	1
	1年生	5	－	－	5	2	3
	小計	33	5	2	40	18	22
合 計		60	25	2	87	52	35

在学生 40 人／初期研修医 15 人／後期研修又は地域で勤務する医師 32 人 男女比は、全体で6:4

8 学習・診療支援オンラインツールの提供

- 「今日の臨床サポート」及び「プロシージャーズ・コンサルツ」の医療情報を提供するためのIDパスワードを医師修学資金貸与学生・医師、自治医科大学学生等に付与し、必要に応じて様々な医療情報を入力できる体制を充実させました。
- 特別臨床実習(クリクラ)を受講した学生に、実習医療機関での「今日の臨床サポート」及び「プロシージャーズ・コンサルツ」の医療情報を提供し活用を図りました。

Ⅱ 地域の医療提供体制の確保に向けた支援

1 診療・診療支援

熊本大学病院においては「総合診療科」の外来診療を月曜日から金曜日まで実施し、学外において地域医療支援機構所属の教員が複数の地域の医療施設で下表のとおり非常勤の医師として診療支援を行います。

大学病院・総合診療外来

月	火	水	木	金
谷口	松井	高柳	佐土原	北村
			谷口(奇数週)	

外来診療支援(医師が不足する医療機関への支援)

専任医師	支援先医療機関	支援内容
後藤	くまもと県北病院	R3.4.1～R4.3.31 週1回
後藤	宇城市民病院	R3.4.1～R4.3.31 週1回
高柳	小国公立病院	R3.4.1～R4.3.31 週1回
高柳	天草市立御所浦診療所	R3.4.1～R4.3.31 週1回

2 テレビ会議システムを活用した遠隔診療・教育支援

- 熊本県の総合診療専門医育成支援整備事業の計画に基づく県内の公的医療機関等にテレビ会議システム配備する事業が完了したことを受け、当機構としてはテレビ会議システムの更なる活用に向けた取り組みを進めています。今年度の取り組みとしては、週1回テレビ会議システムを活用した合同カンファレンスを実施するとともに、総合診療科の専攻医の指導や総合診療の特別実習を行った学生の実習指導を実施するなど支援にも努めました。

設置年度	設置場所
平成28年度	・御所浦診療所・湯島へき地診療所・そよう病院
平成29年度	・小国公立病院・公立多良木病院・上天草総合病院
平成30年度	・河浦病院・阿蘇医療センター・人吉医療センター
令和元年度	・栖本病院・新和病院
令和2年度	・国保水俣市立総合医療センター

3 熊本県地域医療連携ネットワークの構築に向けた全体調整

- 熊本県地域医療連携ネットワークの構築に向けては、地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座と連携し、県からの医師派遣要請に基づき熊本大学病院の各診療科所属の医師を地域の中核的な医療機関に派遣し、地域内の医療機関への医師派遣や人材育成等を担うネットワークを構築するための支援を行うなど、地域医療提供体制の充実に努めています。

- 令和３年度は、当該寄附講座において１３の地域医療拠点病院に常勤医師を派遣し、１５の地域医療拠点病院に週１回～２回特任助教等医師を派遣しました。

Ⅲ 県内医療機関等との連携協力関係の構築

１ 地域の医療機関に対する助言や医療機関との連携、調整

- 地域医療・総合診療実践学寄附講座と連携して、県内の医療機関に当該寄附講座の教育拠点を設置し、地域で必要とされる医師の育成・教育機能向上を図るとともに、当該講座から派遣した教員が日々の診療を通して地域で求められる医療に適切に対応するための活動を行っています。

２ 勤務環境改善支援センターとの相互連携

- 当機構としては、医師修学資金貸与医師の派遣対象医療機関における医師の働き方改革の進捗に関して、熊本県医療勤務環境改善支援センターとの情報共有に努めております。今年度も毎月１回実施している県医療政策課と地域医療支援機構担当者会議に勤務環境改善支援センターのセンター長、統括アドバイザーが出席。また、熊本県医療勤務環境改善支援センターの運営会議にコーディネーターがオブザーバーとして参加。地域医療行政に関する情報共有を図るなど相互連携に努めました。

３ 県医療行政・市町村との連携

- 県医療政策課と地域医療支援機構、県医療勤務環境改善支援センター担当で月１回連絡会を開催し、事業の進め方や政策推進方策等について意見交換を行いました。

４ 熊本大学病院、医学部、県が設置する寄附講座等の連携・調整

- 地域医療・総合診療実践学寄附講座とは医師修学資金貸与学生主体の地域医療ゼミや自治医科大学生も参加する夏季地域医療特別実習など各種セミナーや講演会など協力・連携して取り組んでおりますが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響で夏季実習などが中止となりました。
- 熊本大学医学部はじめ関係機関との連携に努め、学生の地域医療実習等の支援を行いました。
- 修学資金貸与医師のキャリア形成についても、各診療科との連携に努め、円滑な義務の履行とキャリア形成の両立が図られるよう取り組みを進めています。

Ⅳ 医師に関する求人・求職などの情報の発信と相談対応

◆ 熊本県地域医療支援機構のホームページによる情報発信・相談対応

ホームページに相談コーナーを設け、相談窓口を設置しています。また、地域の医療機関で働いている医師修学資金貸与医師の活動レポートの掲載や、イベントの告知及びその報告なども行っています。

◆ 医師、医学生等からの相談窓口の設置

地域医療支援センターに相談窓口を設置し、県内外の医師や医学生からの相談に対応しています。

◆ 熊本県地域臨床実習支援事業の実施

県外に在住している熊本県出身の医学生や、将来熊本県で従事することを考えている医学生等が、熊本県における地域医療の現状を学ぶことを支援することにより、将来の医師偏在化の是正や医師確保につなげることを目的として熊本県地域医療臨床実習支援事業(肥後ふるさと医学生実習支援事業)を平成30年度より実施しておりましたが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため残念ながら、実施を見送ることとなりました。

【募集対象者・募集人数】

募集対象者：熊本県外の大学に在学する地域医療に関心をもつ医学部学生／募集人数：5名以内

【事業実施期間】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施見送らせていただきました。

【実習期間及び実習内容】

実習期間：原則として１週間以内(最低でも2日以上)／

実習内容：診療参加、診療見学等

【実習先】

知事指定病院等のうち29の医療機関

【実習結果報告】

実習希望者は、実習終了後２週間以内に報告書を機構に提出

【事業の周知】

機構は全国の医学系大学などに本事業の周知などを図る

Ⅴ その他

◆ 熊本県地域医療支援機構理事会の運営

□ 第14回熊本県地域医療支援機構理事会

新型コロナウイルス感染拡大の中、リモート形式(ZOOM)により、実施しました。以下の事項について協議され、承認されました。

【協議事項】

- １ 令和３年度(2021年度)事業実績について
- ２ 令和４年度(2022年度)事業計画について
- ３ 令和４年度熊本県医師修学資金貸与医師配置調整案について

【報告事項】

熊本県地域医療連携ネットワーク事業について

◆ 熊本県地域医療支援機構講演会



2022年2月24日(木)18：30～

令和３年度熊本県地域医療支援機構講演会

「コロナへの対応とその後を見据えた地域医療の在り方」

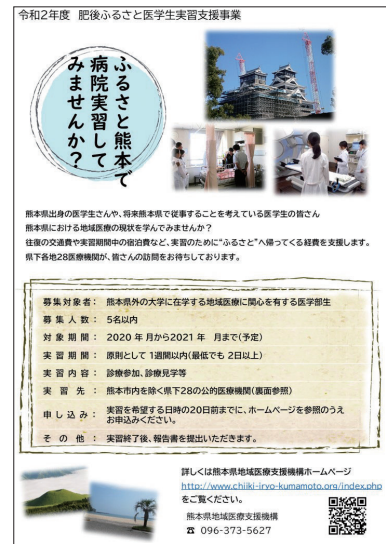
人口減少や高齢化の進展、新型コロナウイルスの感染拡大等、地域医療を取り巻く環境は決して優しいものではありません。

そのような困難を抱えながらも、住民の病気予防、健康増進、健康教育、治療、看取りまで、地域住民に寄り添いながら、診療所で医療を実践される東條環樹先生にご講演いただき、これからの地域医療の提供体制の在り方について考える機会として開催しました。

今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためZOOMによるリモート開催となりました。

● 開会のあいさつ

熊本大学病院 (熊本県地域医療支援機構理事長)
馬場 秀夫 病院長



● 講演

広島県山県郡北広島町 雄鹿原診療所
所長 東條 環樹 先生

東條先生には『田舎の医療で日本を救え！』をテーマに、地域の状況に応じた医療提供体制の在り方について考える機会として、ご講演いただきました。住民の病気予防、健康増進、健康教育、治療、看取りまで、地域住民に寄り添いながら、診療所で医療を実践される東條先生のお話は、ユーモアを交えながらも地域医療の切実な課題を抱える現状を感じられた貴重な講演内容でした。

● 閉会のあいさつ

熊本県健康福祉部健康局 医療政策課
阿南 周造 課長

◆ 知事への表敬訪問

2022年3月28日(月)に、令和3年度卒業の熊本県医師修学資金貸与学生8名が、熊本県庁を訪れ蒲島郁夫知事より激励の言葉をいただきました。また、卒業生からそれぞれ、これから地域医療を担っていく医師としての将来の抱負等を述べました。



◆ メールマガジンによる情報発信

以下の3つのことを目的とし、メールマガジンを発行しました。

- ① 熊本県内の医療関係者に対し、機構の取組みを広く周知することで理解と協力を求める。
- ② 県外在住の医療関係者に対し、熊本県内における地域医療の実情を知ってもらうことで、県内の地域医療への参加を促す。
- ③ 熊本県内で地域医療に携わる医師および医療関係者に対し、取組みの状況と今後の方向性を示すことで、孤立感の緩和とモチベーションの向上を図る。

＜対象＞

- ・熊本県と縁がある県外在住の医師及び医療関係者、県内の病院・医師
- ・県内自治体(市町村)の医療担当部署、熊本県及び郡市医師会
- ・熊本県医師修学資金貸与学生及び医師
- ・熊本出身自治医科大生及び熊本在住の自治医科大卒医師等
- ・講演会等でのアンケートでメールマガジンの受け取りを希望した医療関係者

＜発信状況＞

2021年4月から2022年3月までの間で、約890名の登録者に対し4回、熊本県地域医療支援機構の取組み等を発信しました。

- ✉ 2021/12/13
Vol.52「医学生・研修医などをサポートするための会」セミナー開催のお知らせ
- ✉ 2022/01/14
Vol.53「令和3年度熊本県医療人キャリアサポートクローバーセミナー」開催のお知らせ
- ✉ 2022/02/03
Vol.55「令和3年度熊本県地域医療支援機構講演会」開催のお知らせ
- ✉ 2022/3/31
Vol.56「CLOVER 熊本県医師キャリアサポートブック 第4版」発行のお知らせ

◆ 熊本県地域医療支援機構広報誌の発行

令和3年度も本機構の広報誌「COCODE」(ココデ)を10月(vol.2)と3月(vol.3)と2回発行しました。

今年度は、vol.2で小国地域をvol.3で上天草地域を特集しました。

「COCODE」は、熊本県内の地域の医療機関で活躍する医師などを通じて、医師を志す学生や、地域の皆さんに地域医療の魅力を分かり易く、読みやすく伝えるマガジンです。複数の医療機関から問い合わせもありました。



地方の病院ってすごく忙しいんですか？

岸川先生：「皆さん、こんにちは。天草市立新田病院で総合診療医として働いています。医師として働き始めて6年目です。

阿部：よろしくお話しします。わたしは小学生の婦人入院患者で、その時の不安に寄り添ってくださったお医者さんにあこがれて医師を目指しました。

野口：私は理科の授業でIPSG細胞について学び、医学が進歩することでたくさんの人を助けられることができるんだと思ったのが医師を目指したきっかけです。どうもよろしくお話しします。

阿部：先生は天草市で総合診療医として働いておられますが、医師が不足しているといわれる地方で働くことは、大変じゃないですか？プライベートの時間はとれますか？

岸川：市立新田病院で働き、人吉や上天草市などの病院に勤務しました。忙しいときもありますが、基本的にプライベートの時間は取れますので安心してください。一概には言えないのですが、私の経験から言うと地域の病院の方がアフターファイブは比較的時間に余裕がある印象です。

阿部：当直とかもあつたんですか？

岸川：はい、しています。勤務する病院にもありますが、当直は少ないけれど、緊急時にオンコールで連絡が来る病院もあります。完全当番制のシステムを採用している病院ならば当直は週に数回ありますが、それ以外の時に連絡が来ることはほぼありませんでした。病院によって採用しているシステムが見えるので、あらかじめ調べておくといつかいかもしれません。

家庭と仕事の両立ができるか不安です

野口：結婚して、家庭と仕事の両立ができるのか心配です。

岸川：私は結婚していませんが、周りには結婚して育児しながら総合診療医として活躍している女性さんも見られます。育児を取ったり、時短勤務や当直免除などを活用しながら医師としてキャリアを築くことは可能です。保育園も地方の方が空きがあると思います。いずれにしても育児と仕事の両立は、女性一人では難しいので、パートナーや家族、勤務する病院の理解とサポートが必要です。

野口：阿部：熊本県でも、実際に子育てしながら地域で働いておられる女性の総合診療医の先生がいらっしゃると思います。

阿部：先生は天草市で働き、人吉や上天草市などの病院に勤務しました。忙しいときもありますが、基本的にプライベートの時間は取れますので安心してください。一概には言えないのですが、私の経験から言うと地域の病院の方がアフターファイブは比較的時間に余裕がある印象です。

阿部：当直とかもあつたんですか？

岸川：はい、しています。勤務する病院にもありますが、当直は少ないけれど、緊急時にオンコールで連絡が来る病院もあります。完全当番制のシステムを採用している病院ならば当直は週に数回ありますが、それ以外の時に連絡が来ることはほぼありませんでした。病院によって採用しているシステムが見えるので、あらかじめ調べておくといつかいかもしれません。

“人”にしっかりと寄り添う医療にやりがい

野口：岸川先生は、総合診療医になってよかったと思う時はどんな時ですか？

岸川：総合診療医は、外来や入院など病院だけで医療を完結せずに、在宅診療に伺ったり、ご本人や周りの人の思いなどにしっかりと向き合います。“人”にしっかりとかわりながら最善の医療を提供することで、患者様やご家族に喜んでいただけたときはとてもうれしいですね。“女性の先生は話しやすい”と声をかけてくださる患者さんも多くて、総合診療医は、女性にとってもやりがいのある仕事だと思います。

若手医師×学生二人座談会

阿部：総合診療医は、幅広く知識を持っておこなうじゃないように感じんですけど、すべてのことに精通するのは大変じゃないですか？すごく不安です。

岸川：若い方々、おばあちゃんから小さな子どもまで診療しながら総合診療医として活躍している女性さんも見られます。育児を取ったり、時短勤務や当直免除などを活用しながら医師としてキャリアを築くことは可能です。保育園も地方の方が空きがあると思います。いずれにしても育児と仕事の両立は、女性一人では難しいので、パートナーや家族、勤務する病院の理解とサポートが必要です。

野口：阿部：熊本県でも、実際に子育てしながら地域で働いておられる女性の総合診療医の先生がいらっしゃると思います。

阿部：先生は天草市で働き、人吉や上天草市などの病院に勤務しました。忙しいときもありますが、基本的にプライベートの時間は取れますので安心してください。一概には言えないのですが、私の経験から言うと地域の病院の方がアフターファイブは比較的時間に余裕がある印象です。

阿部：当直とかもあつたんですか？

岸川：はい、しています。勤務する病院にもありますが、当直は少ないけれど、緊急時にオンコールで連絡が来る病院もあります。完全当番制のシステムを採用している病院ならば当直は週に数回ありますが、それ以外の時に連絡が来ることはほぼありませんでした。病院によって採用しているシステムが見えるので、あらかじめ調べておくといつかいかもしれません。

学部の仲間、未来の“同志”です

野口：学生時代にこれだけやっておいた方がいいってことはありますか？

岸川：はい、いい質問ですね。学生時代にこれだけやっておいた方がいいってことはありますか？

阿部：先生は天草市で働き、人吉や上天草市などの病院に勤務しました。忙しいときもありますが、基本的にプライベートの時間は取れますので安心してください。一概には言えないのですが、私の経験から言うと地域の病院の方がアフターファイブは比較的時間に余裕がある印象です。

阿部：当直とかもあつたんですか？

岸川：はい、しています。勤務する病院にもありますが、当直は少ないけれど、緊急時にオンコールで連絡が来る病院もあります。完全当番制のシステムを採用している病院ならば当直は週に数回ありますが、それ以外の時に連絡が来ることはほぼありませんでした。病院によって採用しているシステムが見えるので、あらかじめ調べておくといつかいかもしれません。



女性医師キャリア支援

熊本県女性医師キャリア支援センターでは、①復職支援 ②短時間勤務 ③育児支援 ④メンター制度 ⑤セミナー(啓発活動)を5つの柱にキャリア支援を進めることが重要と考え活動しています。

今年度は以下の事業に取り組みました。

◆ 相談件数

令和3年度(令和3年4月1日～令和4年3月31日まで)の相談件数は、総計18件(対面件6、電話5件、メール7件)でした。

▼ 相談内容の内訳(延べ相談数)令和3年4月1日～令和4年3月31 現在

お留守番医師制度について	1 件	復職相談	0 件
働くこと働き方について	6 件	メンター制度について	0 件
求人の問い合わせ	4 件	同僚・医局の医師について	0 件
保育施設について	2 件	子育てについて	0 件
支援制度についての問い合わせ	4 件	社会保障等について	0 件
ネットワークづくり	2 件	マタニティ白衣・パンツ	2 件

今年度は「働き方について」「支援制度」「求人」に関する問い合わせの相談が多い傾向でした。

◆ 復職支援(お留守番医師制度)

週1回(場合によっては月1回も可能)から復職したい方へ「お留守番医師制度」を設けています。

「お留守番医師制度」では、家庭との両立や自身の健康などに不安を抱える方にも復職しやすい環境の協力機関(現在20医療機関)と連携しています。

在宅医療を開始したい医療機関にとっては代診医師の確保に繋がり、地域住民にとっては、かかりつけ医の訪問診療を受けることが可能になるwin-win-winの相互システムです。

診療所の先生方
訪問診療時に「お留守番Dr」システムを利用していませんか？

かかりつけの患者さんの訪問診療をお断りされたことはありませんか？
訪問診療に割く時間がないし、
ましてやもう一人医師を雇う経済的な余裕なんて・・・

解決できます。

長年培われた先生と患者さんの関係をそのまま継続し、
患者さんの自宅に赴く訪問診療に取り組まれては
いかがでしょうか？

病院の外来診療に協力してみようと思っている医師に、
医療機関の情報を開示し、まずは体験の機会を得て頂く
システムです。
条件が合えば外来診療の協力が繋がります。

県下各地域で何ったお話を元に、在宅医療へ取り組む医師への応援画として、
この事業を企画しました。
県内どこへでも、詳しい説明に参ります。地域の先生方にもお声がけいただければ幸いです。

お問い合わせ：熊本県地域医療支援機構(熊本大学病院 地域医療支援センター内)
TEL:096-372-5295
メールアドレス: k-joseishin@kumamoto-u.ac.jp
復職支援コーディネーター 高橋 真子

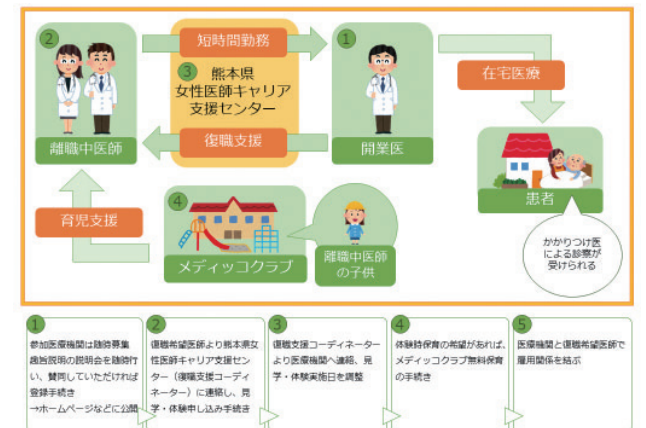
▼ お留守番医師制度に加入している医療機関 (2022年3月31日時点)

熊本市東区	平山ハートクリニック
熊本市南区	土井内科クリニック
熊本市南区	御幸病院
熊本市北区	清藤クリニック
熊本市北区	なかむらファミリークリニック
阿蘇郡	阿蘇立野病院
菊池市	宮本内科クリニック
荒尾市	西原クリニック
玉名市	ひがし成人・循環器内科クリニック
玉名市	河野医院
上益城郡	益城なかぞのクリニック
上益城郡	谷田病院
上益城郡	山地外科胃腸科医院
宇土市	宇土中央クリニック
水俣市	山田クリニック
宇城市	済生会みすみ病院
熊本市中央区	明午橋内科クリニック
熊本市北区	まえだクリニック
菊池市	菊池都市医師会立病院
宇城市	中村医院

熊本県女性医師キャリア支援センターの復職支援コーディネーターが復職希望者の体験申込みを受け、在宅医療を開始したいドクターと繋ぎ体験日を決めます。体験が上手くいけば当事者同士で3か月更新の契約を結びます。この制度で勤務中には、体験時のみ熊本市医師会保育所「メディッコクラブ」が無料で利用できます。

今年度のお留守番医師制度の体験者はいらっしゃいませんでしたが、平成28年度開始からの利用者は体験のみも合わせ7名です。

現在2名の医師が継続されています。



◆ マタニティ白衣・マタニティパンツの貸出しサービス

熊本県女性医師キャリア支援センターでは、熊本県内に在住の妊娠中の医師にマタニティ白衣・パンツを無料で貸出ししています。

マタニティ白衣 マタニティパンツ 貸し出しを しています。

熊本県女性医師キャリア支援センターでは、
妊娠中の医師にマタニティ白衣と
マタニティパンツの貸し出しをしています。
貸し出しの対象は熊本県内に在住の
妊娠中の医師で、
非常勤医師や研修医もOKです。

体型の変化に対応

動きやすさを重視

すっきりとしたシルエット

詳しくは裏面をご覧ください。

W 熊本県女性医師キャリア支援センター
Kumamoto career support center for women doctors

マタニティ白衣について

- サイズはSとMがあります。
- 胸元、腰元にアジャスターがあり調節ができます。

サイズ	着丈	バスト	肩幅	袖丈
S	90	112	38	51
M	95	116	39	51

アジャスター

マタニティパンツについて

- サイズはMのみです。
- 腰元にアジャスターがあり調節ができます。
- 色はネイビーのみです。

サイズ	腰囲	ヒップ	股上	股下
M	85~100	102	27	68

アジャスター

今年度の利用者は2名でした。今後も妊娠中から気軽にご相談できる雰囲気づくりに努め、是非多くの医師にご利用いただきたいと思います。

＜利用者の感想＞

- ・お腹が大きくてもボタンをとめて白衣が着られたのが一番良かった。外来の時もありお腹が目立たなかったようでした。

●開催の挨拶

熊本県地域医療支援機構理事長
熊本大学病院 病院長
馬場 秀夫 先生



●クローバーの会活動報告

国立病院機構熊本医療センター院長
熊本県医師会男女共同参画担当理事
クローバーの会会員 高橋 毅 先生



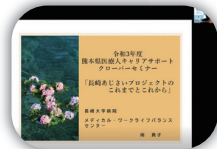
●事例紹介

熊本大学病院 総合周産期母子医療センター
講師 坂本 理恵子 先生



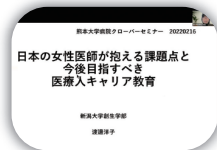
●「長崎あじさいプロジェクトのこれまでとこれから」

長崎大学病院 メディカル・ワークライフバランスセンター
副センター長 南 貴子 先生



●「日本の女性医師が抱える課題点と今後目指すべき医療人キャリア教育」

新潟大学 人文社会科学系 創生学部担当
教授 渡邊 洋子 先生



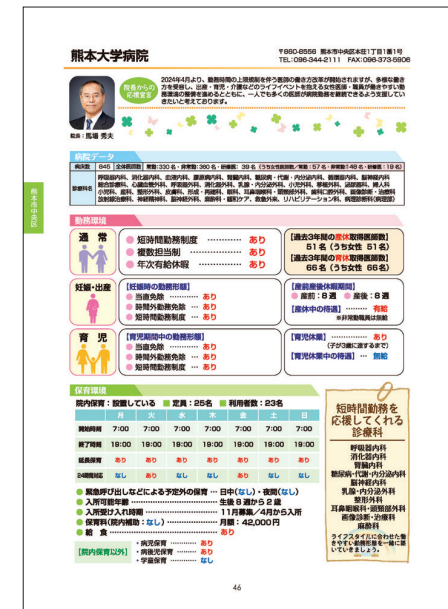
●閉会の挨拶

熊本大学病院男女共同参画推進委員会 委員長
宮本 健史 先生

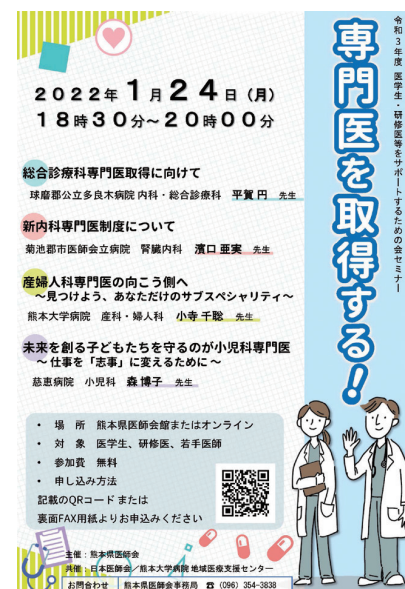


◆ 広報活動

- ホームページ、携帯サイトの運営
- ホームページでは「復職支援」「短時間勤務」「育児支援」「メンター制度」「セミナー情報」「求人情報」「マタニティ白衣の貸出」「相談窓口」「介護情報」などを掲載しています。
- Facebook 及び Twitter のネットワークによる情報交換・情報の共有を図っています。
- CLOVER 熊本県医師キャリアサポートブック第4版 2000 部作成（下記参照）、熊本大学病院男女共同参画コーディネーターの会、熊本大学病院各診療科、お留守番医師制度登録医療機関、メンター候補者や熊本県内の医療機関へ配布しました。



◆ その他セミナー



（共催）
医学生・研修医をサポートするための会セミナー
「専門医を取得する」
講師：球磨郡公立多良木病院 平賀 円 先生
菊池郡市医師会立病院 濱口 亜実 先生
熊本大学病院産科・婦人科 小寺 千聡 先生
慈恵病院 小児科 森 博子 先生

令和4年1月24日（月） 18：30～20：00
Web開催（地域医療ゼミとの合同セッション）

◆ 令和3年度 熊本県医師キャリア支援に関するアンケート調査

令和3年度の熊本県医師会男女共同参画委員会・熊本県女性医師キャリア支援センター・熊本大学病院男女共同参画推進委員会によるアンケート調査では、熊本県内の全病院の所属医師を対象に、専門医取得・宿日直・子育て支援などに関する半構造化webアンケートを実施しました。ご協力いただきました病院様、医師の皆様には深く感謝申し上げます。結果の詳細は別にWebページなどで公表予定ですので、ご参照いただければ幸いです。

今回の結果からは、どの医師も等しく各々の家族・仕事に責任を負うことができ、働きやすい環境を整備するためには、女性の専門医取得を促進し、男性の過重労働を解消する必要があることが明らかとなりました。また、育児支援として最もニーズが高かったのは男性の育児参加休暇取得支援でした。今年度作成したCLOVER冊子第4版でも、育児休業取得された男性医師の存在が明らかとなり、今後男性医師の育児参加に対する上司・同僚のさらなる理解と制度の浸透が望まれます。

◆ 学生への啓発活動

- 1学年講義：令和3年6月14日 医学概論 「医師のキャリア形成、多様性推進」
- 4学年講義：令和3年6月16日 医療と社会Ⅰ 「男女共同参画」 オンライン講義
- 熊本県医師会主催 令和3年度 医学生・研修医をサポートするための会「専門医を取得する！」

3 地域医療・総合診療実践学寄附講座

1. 活動概要

「地域医療・総合診療実践学寄附講座」は、平成27年度末に廃止された「地域医療システム学寄附講座」の後継として平成28年4月1日に設置されました。その後平成31年4月から3年間延長され、令和3年度がその最終年度となっています。なお、当寄附講座のこれまでの実績と本県における医師の地域偏在の解消、さらなる地域医療の充実のために、地域医療を担う総合診療医等を養成する当寄附講座をさらに3年間延長することとされました。

同講座は、超高齢社会における様々な医療ニーズに応えられるよう、これまでの医師循環システムに関する調査研究や地域医療実習教育に関する調査研究等の成果を踏まえ、「医学生や若手医師への卒前からの一貫した地域医療教育」「総合診療医の育成」「地域医療実践教育拠点の運営」など、地域医療を志す医師の養成を目指して、より実践的な取り組みを進めています。

具体的には、熊本大学医学部医学科学生(熊本県医師修学資金貸与学生を含む。)や若手医師に対して、卒前からの一貫した地域医療教育を通じた地域医療マインドの涵養に取り組んでいます。また、今後、地域医療への貢献が期待される総合診療専門医の育成において、熊本県内の公的病院等が連携するに当たり、同講座が中心的な役割を果たすとともに、教育拠点運営支援や地域医療機関における診療支援を促進することとしています。

【主な内容】

- I. 地域医療支援(診療支援)
- II. 調査・研究
- III. 教育活動
 - ・卒前教育(カリキュラム外教育)
 - ・卒前教育(カリキュラム内教育)
 - ・卒後教育
 - 初期臨床研修
 - 専門研修
- IV. 専門医資格修得後のキャリア支援
- V. 講演会

2. 年間活動実績

月	日	行事
4	17	第17回レジデントデイ
5	14	クリクラ第10ターム 振り返り会
	28	第5回 熊本大学総合診療セミナー
6	4	クリクラ第11ターム 振り返り会
	5	第6回 熊本大学総合診療セミナー
7	25	クリクラ第12ターム 振り返り会
	14	令和3年度合同Webカンファレンス①
8	11	令和3年度合同Webカンファレンス②
9	2	TMEC
	3	クリクラ第1ターム 振り返り会
	8	令和3年度合同Webカンファレンス③
	22	TMEC
10	24	クリクラ第2ターム、第13ターム 振り返り会
	14	TMEC
	15	クリクラ第3ターム 振り返り会
	16	第7回 熊本大学総合診療セミナー
11	29	第18回レジデントデイ
	4	TMEC
	5	クリクラ第4ターム 振り返り会
	10	令和3年度合同Webカンファレンス④
12	26	クリクラ第5ターム 振り返り会
	8	令和3年度合同Webカンファレンス⑤
	15	第17回総合診療グランドラウンド
	17	クリクラ第6ターム 振り返り会
	22	第19回レジデントデイ
1	23	第8回 熊本大学総合診療セミナー
	15	第15回レジデントデイ
2	20	TMEC
	2	第18回総合診療グランドラウンド
3	26	第3回熊本大学総合診療セミナー
	2	第20回レジデントデイ
	24	TMEC
4	25	クリクラ第10ターム 振り返り会

※ クリクラ第7、8、9タームはコロナ感染拡大により中止

3. 活動報告

Ⅰ 地域医療支援(診療支援)

大学病院においては、「総合診療科」の外来診療を月曜日から金曜日まで実施し、専門診療科以外の受診を目的とした初診患者を中心に診療を行いました。また、大学病院の救急外来診療等も担当しました。

玉名教育拠点にては、「総合診療科」の外来及び病棟診療を行いました。また、同院の救急診療にも携わりました。その他の熊本県内の医師が不足している病院に対し、県からの要請に基づき、診療支援活動を行いました。

◆ 大学病院 総合診療外来

月	火	水	木	金
谷口	松井	高柳	佐土原	北村
			谷口(奇数週)	

◆ 学外診療支援

谷口	2021.4～2021.8	くまもと県北病院(第1、3、5週)
	2021.4～2022.3	天草地域医療センター(第2、4週)
佐土原	2021.4～2022.3	公立多良木病院(週1回)
北村	2021.4～2022.3	山都町包括医療センターそよう病院(週1回)
	2021.4～2022.3	くまもと県北病院(週1回)

Ⅱ 調査・研究

◆ 地域医療実習教育に関する調査研究

修学資金貸与による義務年限を有する学生の将来のキャリア支援と定着の要因の解析と例年行ってきた地域医療特別実習の効果を見るために実習前後での質的・量的なアンケートを実施しており、新型コロナウイルス感染症のパンデミック前の2019年のデータを解析、学会発表を終え、現在論文投稿準備中です。その後は、コロナ禍で開催できず、ポストコロナ時代の地域医療特別実習のあり方についても実施の目処が立ち次第、調査に移る予定です。

◆ 総合診療専門医普及に関する調査研究

当講座では、日本専門医機構の基本領域専門医である総合診療専門医の育成を担っています。医師の働き方改革の解決策の一つのモデルを米国のホスピタリスト(病院総合医)に求め、日米の医療制度の違いや労働の実態の比較から、平成30年に米国のホスピタリスト(病院総合医)にインタビューしたデータを質的に解析したものを学会発表済みです。今後、論文化する予定であります。

総合診療専門医のアカデミックな活動の支援として、2019年に兵庫医科大学臨床疫学共催でワークショップを行いました。その活動の一環で、2021年は、研究倫理ワークショップを開催しました。いずれもAMED(日本医療研究開発機構)の臨床研究トレーニングに組み入れられた能動的研究倫理学習プログラムに準拠しており、その効果についてワークショップ前後でのアンケートの比較を通じて、兵庫医科大学と共同で解析中です

◆ 医療機関の勤務環境に関する調査研究

研修医が地域医療研修において困難を克己して安全な研修生活を送るためのキャリア支援につなげるために、研修医のレジリエンスと地域医療研修との関係について2019年から2021年までアンケート調査による縦断研究を行いました。会及び科学研究費助成事業の報告書として報告済みで、論文化を進めています。

◆ 教育拠点に関する調査研究

教育拠点に関する調査については、総合診療科、地域医療支援機構、各教育拠点と連携して、次のような取り組みを行っています。

くまもと県北教育拠点については、総合診療科専攻医の教育、初期臨床研修、地域医療・総合診療に係る学生実習の拠点として活動しています。現在2人の総合診療科の専攻医が勤務しており、くまもと県北病院との連携により本人のキャリア形成に向けた取組みについて課題等の把握を行いました。天草地域医療センターに平成31年4月に設置した天草教育拠点については、熊大病院との連携として天草地域医療センターで総合診療に関する学生の臨床実習を実施し、課題等について把握を行いました。

また、令和3年4月から天草市立河浦病院に新たな教育拠点を設置し、へき地の中心的な医療機関における地域で必要とされる医師の育成・教育機能向上を図る観点から調査を行っています。総合診療科の専攻医が10月から配属になり、当講座の教員の指導の下診療を行い、課題等についての検証が進められています。

Ⅲ 教育活動

◆ 卒前教育(カリキュラム外教育)

① 地域医療ゼミ

地域枠学生等(熊本県医師修学資金貸与学生)を主な対象に実施している地域医療ゼミは、今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、主にリモートでの開催としました。「マンガメディケーション」や更新される「キャリア形成プログラム」に関する説明、講演、グループ討議等合計11回の活動を行いました。

なお、第1回ゼミは、新入生の歓迎会を兼ねて対面で実施し、自治医大生、県外枠の修学資金貸与学生が参加できるようZOOMでも対応できるハイブリット方式で行いました。また、第11回ゼミでは、6年生の卒業を祝って、追出しゼミとして対面で実施しました。

② 夏季地域医療特別実習

夏季地域医療特別習は、熊本県医師修学資金を貸与されている学生及び熊本県出身自治医科大生を対象として毎年県内各地で開催しています。将来地域医療に従事することが予定されている学生にとって、「地域を知る」ことで、将来の自身の医療者像を考え、地域での医療に主体的に係わる動機づけとなることが期待できることから、今年度もコロナ禍の中でも実施できる方策を検討しましたが、例年通りの実習の実施は見送りとなりました。このため、規模を縮小して、対象を熊大の2年生と1年生を対象として、少人数のグループに分けて、第2グループの病院で個別に実習することも模索したところですが、第6波の感染拡大を受けて再び中止せざるを得なくなりました。

◆ 卒前教育(カリキュラム内教育)

地域医療システム学寄附講座を設置以来、これまでも医学科カリキュラムの実施に協力してきましたが、今年度も、地域医療・総合診療実践学寄附講座として、医学科長からの依頼に基づき、以下の実習及び講義を行いました。なお、地域医療支援センターへ依頼があった講義(※)も一緒に記載しています。

- ・1年生：早期臨床体験実習Ⅰ、医学概論※
- ・2年生：早期臨床体験実習Ⅱ、医学英語
- ・3年生：早期臨床体験実習Ⅲ、公衆衛生学
- ・4年生：医療と社会Ⅰ、総合診療学、臨床実習入門、チュートリアル
- ・5年生：特別臨床実習
- ・6年生：特別臨床実習

【1年生】

医学概論		早期臨床体験実習Ⅰ	
2021/4/19	谷口 熊本大学医学部の歴史	2021/7/8,15	谷口 「ECE 向け準備」
2021/6/14	後藤 医師のキャリア形成、多様性推進	2021/9/30,10/7	松井・谷口 ECEⅠ発表会

行動科学Ⅰ	
2021/7/26	谷口 「コミュニケーション」
2021/8/2	谷口・高野 「医療における自由と制限」

【2年生】

医学英語	
2021/11/10	佐土原 「地域医療」
2020/11/24	小山 「プライマリケア」

① 早期臨床体験実習Ⅰ・Ⅱ(ECEⅠ・Ⅱ)

早期臨床体験実習Ⅰは1学年を対象とし、Ⅱは2学年を対象として、6年前に改正された新カリキュラムに基づき必修科目として実施されているものであり、Ⅰは従来から実施していた「早期社会体験実習」の名称を変えて、またⅡは3年間の早期臨床体験実習の中間に位置付けています。

早期臨床体験実習Ⅰについては、臨床医学教育研究センターが実施責任者となり、心身障害児(者)施設、慢性疾患療養施設、老人保健施設、特別養護老人ホーム、療養型病院等で1年生110人の実習が予定されていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により実習自体は中止となりました。このため、実習を予定していた施設へのオンライン(ZOOM)インタビューによる代替実習となりました。

また、インタビュー実習後は、9月30日と10月7日の2回にわけてグループ発表会が実施され、その内当講座は9月30日の発表会の指導を担当しました。

早期臨床体験実習Ⅱについては、3月1日及び3月7日に学生を2名受入れる予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で中止となりました。

【3年生】

早期臨床体験実習Ⅲ	
2021/9/30	高柳 「オリエンテーション」
2021/11/26	高柳 「導入」
2021/11/29 -2021/12/3	高柳 「学外実習」
2021/12/3	高柳 「振り返りグループワーク」

● 早期臨床体験実習Ⅲ 指導医ワークショップ

- 【日時】 2021年11月12日(金)
- 【開催方法】 Zoomによるオンライン開催(後日YouTubeによる動画も公開)
- 【内容】 実習概要・目的について、ログブック・評価について、実習詳細について

② 早期臨床体験実習Ⅲ (ECEⅢ)

早期臨床体験実習Ⅲは、早期臨床体験実習Ⅰ(1学年対象)及び早期臨床体験実習Ⅱ(2学年対象)に続く完結版として、また上位学年で実施される臨床実習への基礎入門編として3学年を対象に必修として実施されています。

平成26年度入学の学生から適用される新カリキュラムに基づき、当講座が実施しています。

3年度は、11月29日～12月3日の5日間に渡り、県内の87医療機関の協力を得て、3年生全員(116人)が実習を行いました。また、9月30日に学生オリエンテーション、実習前週金曜日(26日)の午後に導入を行い、週明け月曜日には朝から実習に携われるよう日程に配慮して実施。最終日12月3日の午後から振り返りを大学内において実施しました。(上記実習スケジュール)

また、実習実施に当たっては、11月12日、実習受入施設の17施設の指導医及び担当事務を集め、オンラインによる事前説明会を開催して実習の指導徹底を図り、当日参加が難しい64施設には、後日視聴いただけるよう説明会を録画して動画を作成しました。

さらに、昨年同様、学生が実習先の選定材料となるよう、事前に実習協力施設128施設に対し「実習計画調査票」の作成を依頼し、1週間の実習計画についての調査・聞き取りを行いました。

【4年生】

医療と社会	
2021/5/19	谷口・下地 「医療人類学」
2021/6/16	後藤・蓮沼 「男女共同参画」

総合診療学	
2021/4/20	谷口 「医療面接総論」
2021/4/27	佐土原 「身体診察概論」
2021/5/11	高柳 「臨床推論概論」
2021/5/18	鶴田 「臨床推論演習 1」
2021/5/25	松本 「臨床推論演習 2」
2021/6/1	中村 「臨床推論演習 3」
2021/6/8	北村 「臨床推論演習 4」
2021/6/15	松井 「総合診療概論」
2021/6/30	谷口 「医療面接各論 SP 実習」

公衆衛生学	
2021/6/25	中本 「地域保健、地域医療②」
2021/6/25	高柳 「地域保健、地域医療③」
2021/7/ 1	鶴田 「保健・医療・福祉・介護の仕組み③」
2021/7/ 1	佐土原 「予防医学と健康維持増進③」

チュートリアル実習	
2021/ 9/27 - 2021/10/8	谷口 一部

臨床実習入門	
2021/ 9/ 6 -2021/ 9/17	松井、谷口、佐土原、高柳、北村 「医療面接」

プレ臨床実習	
2021/10/25 - 2021/10/29	谷口 「電子カルテ実習」

【5年～6年生】

特別臨床実習(クリクラ:クリニカルクラークシップ)

＜授業の目的＞

診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師として最低限必要な医学知識、臨床推論、臨床判断・技能・態度などの能力を身につけることを目標としています。

＜授業の概要＞

現在、5 学年の 7 月から 6 学年の 9 月までの全 14 ターム(1 タームは 3 週間)で実施されている特別臨床実習において、当講座は、平成 26 年度から地域医療を提供しています。

▼各医療機関の特別臨床実習「地域医療」および「総合診療※」における学生受入人数

No.	施設名	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	累計
1	阿蘇医療センター	--	--	--	2	3	1	8	7	10	31
2	天草地域医療センター	--	--	--	5	5	12	13	9	3	47
3	荒尾市民病院	--	--	--	--	5	9	10	11	7	42
4	小国公立病院	4	8	9	3	6	4	4	7	7	52
5	上天草総合病院	3	10	13	4	0	2	6	8	11	57
6	菊池郡市医師会立病院	--	--	--	--	2	7	6	1		16
7	御所浦診療所	--	--	--	5	2	4	5	2	3	21
8	そよう病院	4	4	13	4	0	4	6	4	4	43
9	公立多良木病院	1	0	0	6	2	5	11	7	10	42
10	人吉医療センター	--	8	19	7	7	20	9	12	18	100
11	水俣市立総合医療センター	--	--	--	6	5	9	10	9	15	54
12	山鹿市民医療センター	--	--	--	--	5	8	11	9	7	40
13	熊本総合病院	--	--	--	--	--	7	13	11	11	42
14	熊本労災病院	--	--	--	--	--	10	11	10	13	44
15	公立玉名中央病院(クリクラ総診のみ)	--	--	5	17	16	4	15	8		65
16	河浦病院									1	1
17	栖本病院										0
	合計	12	30	59	59	58	106	138	115	120	697

R2年度の地域医療はインタビュー実習等を含む
クリクラ総合診療科実習も含む

◆ 特別臨床実習：地域医療

5学年夏から6学年秋までの全14 ターム(1タームは3週間。12タームまでは5・6年次の必須科目。13、14タームは6年次の選択)で実施される特別臨床実習において、当講座は平成26年度から地域医療を提供しています。

今年度は、新型コロナの影響で第8タームの学生に関しては、インタビュー実習(電話で実習受入先にあらかじめ用意した質問に答えてもらう質疑応答形式の実習)に変更しました。県内の14医療機関の協力を得て、5・6年生 延べ120人に対し、地域医療実習を提供しました。また、5月には、5学年向けに動画視聴によるオリエンテーションを行いました。

▼ 2020-2021年度 特別臨床実習「地域医療」の受け入れ人数

		前期					今期										
No.	実習受入先	10 2020 4/19- 5/14	11 2020 5/17- 6/4	12 2020 6/7- 6/25	13 2020 9/6- 9/24	14 2020 9/27- 10/8	1 2021 8/16- 9/3	2 2021 9/6- 9/24	3 2021 10/15- 10/15	4 2021 10/18- 11/5	5 2021 11/8- 11/26	6 2021 11/29- 12/17	7 2021 12/20- 1/21	8 2021 2/1- 2/10	9 2021 2/14- 3/4	10 2021 3/7- 3/25	合計
1	阿蘇医療センター	1	1	1					1	1	1			1	1	1	10
2	天草地域医療センター	1	1	1													3
3	荒尾市民病院						1	1		1		1		1		1	7
4	小国公立病院			1				1	1	1		1	1		1		7
5	上天草総合病院		1		1		1		1	1	1	1	1	1	1	1	11
6	菊池郡市医師会立病院																0
7	御所浦診療所	1					1										1
8	そよう病院			1	1				1	1							4
9	公立多良木病院	1	1				1	1	1		1	1	1	1	1	1	10
10	人吉医療センター	1	1				1	2	2	2	1	1	1	2	2	2	18
11	水俣市立総合医療センター	1	1	1	1		2	1	2	1	2	1	1	1	1		15
12	山鹿市民医療センター			1			1	1				1	1	1	1	1	7
13	熊本総合病院	1	1	1				1	1	1	1	1	1	1	1		11
14	熊本労災病院	1	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
15	河浦病院				1												1
16	栖本病院																0
	合計	8	8	8	4	0	9	9	10	10	9	9	10	9	9	8	120

▼ 診療所・病院のスケジュール例

人吉医療センター					
	月	火	水	木	金
1 週目	オリエンテーション 総合診療・救急センター 総合診療	キャンサーボード 小児科	プライマリケアカンファレンス 病棟回診 訪問看護 訪問診療	五木村診療所	外科合同カンファレンス 総合診療 救急センター 訪問診療 訪問看護
2 週目	モーニングレクチャー ドクターズ会、病棟回診 総合診療 救急センター	五木村診療所	プライマリケアカンファレンス 病棟回診 選択診療科での実習	プライマリレクチャー 病棟回診 選択診療科での実習	外科合同カンファレンス 訪問診療
3 週目	モーニングレクチャー ドクターズ会、病棟回診 選択診療科での実習	五木村診療所	プライマリケアカンファレンス 病棟回診 総合診療・科学療法外来 訪問看護またはリンパ浮腫 外来	プライマリレクチャー 病棟回診 選択診療科での実習 総合診療・救急センター 外来	外科合同カンファレンス 総合診療・救急センター まとめ

選択診療科：小児科、産婦人科、代謝内分泌内科(外来)、外科、整形外科、その他希望診療科

御所浦診療所					
	月	火	水	木	金
1 週目	朝礼 眼科外来/総合診療外来 総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横浦へ移動 府外来 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島	朝礼 整形外科外来/総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横浦へ移動 外来 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島	朝礼 検査 総合診療外来 スタッフミーティング 総合診療外来/訪問診療 振り返り・次週の予定確認
2 週目	朝礼 眼科外来/総合診療外来 総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横浦へ移動 府外来 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島	朝礼 整形外科外来/総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横浦へ移動 外来 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島	朝礼 検査 総合診療外来 スタッフミーティング 総合診療外来/訪問診療 振り返り・次週の予定確認
3 週目	朝礼 眼科外来/総合診療外来 総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横浦へ移動 府外来 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島	朝礼 整形外科外来/総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横浦へ移動 外来 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島	朝礼 検査 総合診療外来 スタッフミーティング 総合診療外来/訪問診療 振り返り(個人で)その後、 総括

◆ 特別臨床実習：総合診療科

この実習は救急・総合診療部の実習ではなく、地域医療・総合診療実践学寄附講座として独立した「総合診療科」の実習となり、1ターム3週間の選択実習を行いました。

今年度、総合診療科としての実習は、大学病院及びくまもと県北教育拠点、天草教育拠点の3か所で延べ32人の実習を提供しました。

くまもと県北病院					
	月	火	水	木	金
1 週目	病棟回診 外来研修 外来レビュー 病棟研修 新患カンファレンス 自己研修	モーニングレクチャー 訪問看護 外来レビュー 多職種カンファレンス 病棟回診 振り返り 自己研修	プライマリケアレクチャー 病棟回診 外来研修 訪問診療or緩和ケア回診 or病棟研修 振り返り 自己研修	病棟回診 外来研修 外来レビュー/各種講義 病棟研修 振り返り 自己研修	病棟回診 訪問診療 病棟研修 週間振り返り 自己研修
2 週目	病棟回診 外来研修 外来レビュー 病棟研修 新患カンファレンス 自己研修	モーニングレクチャー 訪問看護 外来レビュー 多職種カンファレンス 病棟回診 振り返り 自己研修	プライマリケアレクチャー 病棟回診 外来研修 訪問診療or緩和ケア回診 or病棟研修 振り返り 自己研修	病棟回診 外来研修 外来レビュー/各種講義 病棟研修 振り返り 自己研修	病棟回診 訪問診療 病棟研修 週間振り返り 自己研修
3 週目	病棟回診 外来研修 外来レビュー 病棟研修 新患カンファレンス 自己研修	モーニングレクチャー 訪問看護 外来レビュー 多職種カンファレンス 病棟回診 振り返り 自己研修	プライマリケアレクチャー 病棟回診 外来研修 訪問診療or緩和ケア回診 or病棟研修 振り返り 自己研修	病棟回診 外来研修 外来レビュー/各種講義 病棟研修 ジャーナルクラブ	病棟回診 訪問診療 週間振り返り 自己研修

◆ 卒後教育

① 初期臨床研修

熊本病院群初期臨床研修プログラムで総合診療科(大学病院)を選択した初期臨床研修医3人に対し、総合診療・地域医療に関する教育指導を行いました。

施設名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	研修受け入れ 総人数
熊本大学病院						1						1	2
くまもと県北病院 ／くまもと県北教育拠点													0
天草地域医療センター /天草教育拠点										1	1		1

* 天草教育拠点は、1人の研修医が2ヶ月連続して従事

② 専門研修

熊本大学総合診療専門研修プログラムの専攻医5名に対し教育指導を行い、県内の公的病院において昨年から引き続き研修を行いました。

研修の支援・指導の充実を図るためテレビ会議システムを活用し、症例検討を遠隔で指導する「合同Webカンファレンス」を5回開催するとともに、専攻医の研究発表をテレビ会議システムを通じて各病院へ配信しました。

また、専攻医等が経験した症例・事例の発表を、テレビ会議システムを通じて各病院へ配信しました。当寄附講座としては、専攻医の研修修了要件である経験省察験修記録(ポートフォリオ)の作成指導なども行っており、年5回のレジデントデイを開催することで専門研修の進捗状況の確認と振り返りを行い、よりきめ細かい指導に努め、プログラム修了に向けてさらに丁寧な指導に心がけてまいりました。

なお、令和元年度末で終了した熊本大学地域医療支援・総合診療後期研修プログラムを修了した医師が、家庭医療専門医資格試験に合格しました。また、新専門医制度に基づく熊本大学総合診療専門研修プロ

グラムでは、プログラムを修了した専攻医4人が総合診療専門医の専門医試験に合格しました。
本年度のプログラムへの応募状況は、初期研修医1名が新たに採用されることになりました。

● 熊本大学総合診療専門研修プログラム

当プログラムは、日本専門医機構認定の総合診療医後期研修プログラムです。
熊本大学病院を中心として、熊本県内全域に広がる様々な医療施設の協力のもと、オール熊本として、総合診療専門医の育成に取り組むプログラムです。研修施設には、大学病院や地域中核病院に加え、小規模病院等も含まれ、県庁所在地である熊本市内のみならず、県内の各二次医療圏に研修施設があります。県内全域に広がる多くの施設がプログラムに参加することにより、異なる特性を持つ施設で、その地域に根づいた研修を行うことができ、本人の希望に応じた研修が可能となっています。
また、熊本県医師修学資金貸与の熊本大学卒業生(地域枠入学者を含む)や、熊本県出身の自治医科大卒業生に対し、総合診療専門医としてのキャリア形成支援に寄与することも目指しています。

◆ 研修プログラム

プログラム期間は原則として3年間で、総合診療専門研修、必修の領域別研修(内科、小児科、救急)、その他の選択研修で構成されます。将来の自分のキャリアプランに合わせてローテーション、勤務地の選択が可能です。

総合診療研修	総合診療Ⅰ（診療所・中小病院）	6ヶ月以上	合計
	総合診療Ⅱ（病院総合診療部門）	6ヶ月以上	18ヶ月以上
領域別研修（必修）	内科	12ヶ月以上	
	小児科	3ヶ月以上	
	救急科	3ヶ月以上	
選択科研修	皮膚科、整形外科、精神科、etc…	希望に応じて	

▼ 総合診療研修・必修領域研修機関一覧

総合診療Ⅰ	阿蘇医療センター	小国公立病院	河浦病院	栖本病院
	そよう病院	公立多良木病院	新和病院	沢田内科医院
	安成医院	御所浦診療所	椎原診療所	湯島へき地診療所
総合診療Ⅱ	熊本大学病院	熊本医療センター	上天草総合病院	くまもと県北病院
	人吉医療センター	天草地域医療センター	水俣市立総合医療センター	
内科	くまもと県北病院	上天草総合病院	人吉医療センター	天草地域医療センター
	熊本総合病院	くまもと森都総合病院	熊本赤十字病院	
小児科	阿蘇医療センター	くまもと県北病院	人吉医療センター	天草地域医療センター
救急科	熊本大学病院	熊本医療センター	くまもと県北病院	人吉医療センター
	天草地域医療センター			
その他の領域	外科	くまもと県北病院	人吉医療センター	天草地域医療センター
		熊本大学病院(消化器外科)	熊本大学病院(乳腺・内分泌外科)	熊本総合病院
	産婦人科	人吉医療センター	熊本総合病院	天草中央総合病院
	整形外科	くまもと県北病院	天草地域医療センター	熊本大学病院
	皮膚科	くまもと県北病院		熊本総合病院
	泌尿器科	くまもと県北病院	天草地域医療センター	熊本総合病院
	放射線科	くまもと県北病院	人吉医療センター	天草地域医療センター
	精神科	熊本医療センター		
	麻酔科	くまもと県北病院		
リハビリテーション科	くまもと県北病院			
	臨床疫学	熊本大学病院		

◆ 研修プログラムのスケジュール例

1. 熊本県医師修学資金貸与医師キャリア形成プログラム

① 総合診療コース(例)

卒後(年目)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
① 勤務先の種別	基幹型臨床研修病院		第1グループ		第2グループ	第2グループ	第2又は第3グループ	後期研修(義務内)	義務年限終了	
② 勤務(研修)先医療機関候補	臨床研修 県内の基幹型臨床研修病院		専門研修 ・公立玉名中央病院 ・人吉医療センター ・熊本総合病院 ・天草地域医療センター		・阿蘇医療センター ・小国公立病院 ・そよう病院 ・公立多良木病院 ・上天草総合病院 ・河浦病院 ・新和病院 ・栖本病院	第2グループの医療機関	第2又は第3グループの医療機関	県内の医療機関		
③ 義務償還期間(年)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	—

【備考（総合診療）】

- 第1～3グループ、後期研修（義務内）の順序は入れ替え可能です。
- 第2、3グループの医療機関での勤務期間においては、専門性の向上などを目的として、週1日、勤務先以外の医療機関で研修を行うことが可能です。
- 研修先及び勤務先は、県内の各地域における医師不足状況等を踏まえ、県及び地域医療支援機構において調整した後、熊本県地域医療対策協議会で協議、決定します。

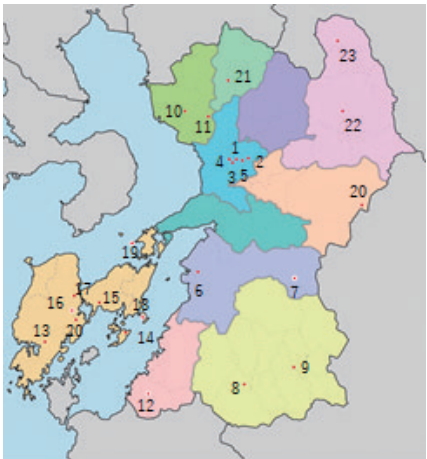
2. 専門研修ローテート(例)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 年 目	公立玉名中央病院 総合診療科 内科研修						公立玉名中央病院 総合診療科 総合診療Ⅱ研修			公立玉名中央病院 小児科 小児科研修		
2 年 目	天草地域医療 センター 呼吸器内科 内科研修	天草地域医療センター 内科 内科研修					天草地域医療センター 総合診療科 総合診療Ⅱ研修					
3 年 目	御所浦診療所 総合診療Ⅰ研修											

※ 玉名研修中に総診Ⅱ研修と並行して週1日の救急研修

◆ 研修施設一覧 令和3年度

1	くまもと森都総合病院	13	河浦病院
2	熊本赤十字病院	14	御所浦診療所
3	熊本大学病院	15	栖本病院
4	熊本医療センター	16	天草地域医療センター
5	沢田内科医院	17	天草中央総合病院
6	熊本総合病院	18	上天草総合病院
7	八代市立椎原診療所	19	湯島へき地診療所
8	人吉医療センター	20	新和病院
9	公立多良木病院	21	山鹿市民医療センター
10	くまもと県北病院	22	阿蘇医療センター
11	安成医院	23	小国公立病院
12	水俣市立総合医療センター	24	そよう病院



Ⅳ 専門医資格修得後のキャリア支援について

専門医資格取得後も、熊本大学病院総合診療科として様々なキャリア支援を行っています。大学病院という診療・教育・研究機関の特色を活かし、個別のニーズに合わせ、臨床経験だけでなくアカデミックなキャリアも含め、様々な研鑽を積むことができることが特徴です。

専門医取得後の5年間は、これまでも増して重要な時期であると考えています。卒後6年目から10年目程度の若手医師を対象の中心とし、様々な指導、支援を行っております。もちろん、それ以上のキャリアをお持ちの方々に対して、ご要望に応じた支援を行うことも可能です。

医師としての臨床能力を磨くことはもとより、指導医として医学生から専攻医までの様々な世代への教育の経験を積んでいただくことができます。熊本県内に多数存在する連携機関の協力の基、各人の要望に応じた多彩な研鑽を積むことができる場を用意しています。また専門医資格取得後、変化する各人の様々な要望に即し、総合診療領域外、あるいは関連する領域についての研修を行うことも支援します。各人の興味のある分野をさらに伸ばせるよう、熊本大学病院総合診療科がバックアップしていきます。令和3年度末、新たな専門医制度下での総合診療専門医資格修得者4名が、大学病院や地域の医療機関等に勤務しながら各人の希望に応じた研鑽を積んでいます。

また、熊本大学の大学院へ進学し、医学博士の修得を目指す方の支援も行っています。それまでの臨床経験の中で得た様々な疑問の解決を目指し、各人の興味に応じた臨床研究を推進し、学位の修得を目指した論文作成の指導を行います。社会人大学院学生として、大学病院外で勤務しながら、研究を行うことも可能です。令和3年度末現在、2名の専門医資格修得者がこの博士課程に在籍しています。

更には、熊本県の医師就学金貸与制度や自治医大の卒業生など、地域での診療に従事する義務がある方々に対しても、義務の償還を行いながら、キャリア形成支援を継続することが可能であるのも特徴です。総合診療科と当寄附講座及び地域医療支援機構が一体となって、引き続きそれまでの研鑽で身に着けた能力を生かし、様々な施設、あるいは地域で活躍の場を見つけることを支援しています。

Ⅴ 講演会

主催 第5回 熊本大学総合診療セミナー「Multimorbidity(多疾患併存)のみかた」 2021年5月28日(金)

● 講師：南砺市民病院 大浦 誠 先生
ZOOM による WEB 開催

第5回
熊本大学
総合診療セミナー

5 / 28 Fri
19:00～20:30

参加費
無料

「Multimorbidity
(多疾患併存)のみかた」
講師:大浦 誠 先生 南砺市民病院

対象

▶ 初期臨床研修
医～医師7年
目前後の若手
医師
▶ 総合診療に関
心があるすべて
の医師

方法

Web開催
(Zoom利用)
事前申し込み後
お申し込みした
メールアドレスに
Zoomの参加メー
ルをお送りします。

申込

お申込は以下から
お申し込みします
申込フォーム用
QRコード
セミナー登録に
ついてはこちら

30

主催 第6回 熊本大学総合診療セミナー「総合診療医のための鍼灸」 2021年 6月 5日(土)

講演：「総合診療医のための鍼灸」
講師：医療法人弘池会 口之津病院 総合内科 寺澤 佳洋先生

日時

令和3年6月5日(土) 18時～19時30分

開催方法

Zoomによるオンライン開催

申込方法

Web申込 <締切：6月3日(木)>
QRコード、または下記URLよりお申込み下さい。
後日、招待メールをお送り致します。
<https://forms.gle/Kc1P4tRrF3C4Q6x6>

対象

総合診療に興味のある全ての医療従事者
及び医学生

お問い合わせ：熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座
TEL：096-373-5721 担当：山口

～ すべての研修医・若手医師のための ～

第6回 熊本大学 総合診療セミナー

主催：熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

● 講師：口之津病院総合内科 寺澤 佳洋 先生
ZOOM による WEB 開催

主催 第7回 熊本大学総合診療セミナー 「君には読影できるか！熊大総合診療セミナー ×画像診断塾」 2021年10月16日(土)

第7回 熊本大学 総合診療セミナー

参加申込
受付中

「君には読影できるか！熊大総合診療セミナー×画像診断塾」
講師：株式会社 ワイズ・リーディング 代表取締役 中山 善晴 (医学博士)

開催日時

令和3年10月15日(金) 19時～20時30分

開催方法

オンライン(Zoom)開催

対象

総合診療に興味がある全ての若手医師・医学生

申込方法

Web申込み
(左のQRコードよりお申込みください。後日、招待メールをお送り致します)

申し込み期間

令和3年10月13日(水)

2012年から、臨床画像を学びたい医学生に、画像に触れる機会を提供しようと「画像診断塾」を開催されている中山善晴先生をお招きして「第7回 熊大総合診療セミナー」を開催致します。
臨床的立場から診断に迫る総合診療科と画像的立場から診断に迫る放射線科の融合による、とても興味深いお話しですので是非ご参加下さい。

● 講師：(株)ワイズ・リーディング代表取締役
(医学博士) 中山 善晴 先生
ZOOMによるWEB開催

主催 第8回 熊本大学総合診療セミナー「9つの極論で語る！オピオイド鎮痛薬の選び方、使い方」 2021年12月23日(木) 19:00～20:30

第8回 熊本大学
総合診療セミナー

「9つの極論で語る！オピオイド鎮痛薬の選び方、使い方」
＜講師＞医療法人社団 高野会 大腸肛門病センター 高野病院
緩和ケア科 鳥崎 哲平 先生

患者さんの苦痛を取るための「鎮痛」、きちんとできていますか？ 症状緩和がきちんと出来ているかどうか、悩んだことはありませんか？
この難問に聞いて、思い切って「ズバット」語ってみましょう！
オピオイドを使っている方も、これから使うかもしれない方も、**命のやりと**です！

・日 時

令和3年12月23日(木)
19:00～20:30

・開催方式

オンライン(Zoom)

・申込方法

右記QRコードから 事前にお申し込み下さい
<申込締切：12月20日(月)>
後日、Zoom招待メールをお送りします

● 講師：大腸肛門センター高野病院緩和ケア科
鳥崎 哲平 先生
ZOOM による WEB 開催

31

主催

第17回総合診療グランドラウンド「新型コロナウイルス感染症に対する『感染防止対策』」
～1年3カ月の地域住民への啓発活動とその意義～ 2021年12月15日(水)



- 講師：熊本託麻台リハビリテーション病院
病院長 平田 好文 先生
ZOOMによるWEB開催

主催

第18回総合診療グランドラウンド「事例から深める総合診療 イギリスと日本の比較」
2022年2月2日(水)



- 講師：NTT東日本関東病院
総合診療科兼国際診療科部長
佐々江 龍一郎 先生
ZOOMによるWEB開催

4. 専攻医の声

● 永田 洋介 先生 （専攻医4年目）

今年度は専攻医4年目として、人吉医療センター総合診療科の研修を行いました。総合診療科外来に加え、救急外来での救急対応、一般病棟管理や集中治療管理、新型コロナウイルス感染症対策と様々な経験をしました。様々な場面においても、健康を管理することはまさに総合診療そのもので、多面的に考えることの重要性を学びました。上級医による指導や、適切なフィードバックを受け、十分なサポートの元、仕事に従事することも出来ました。その他、研修日を利用し、上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡の手技を身につけ地域医療に従事しながらも各科専門医による治療も同時に学ぶことが出来ました。今後も引き続き成長出来るように充実した研修を続けたいと思います。

● 早川 香菜美 先生 （専攻医4年目）

現在は天草の新和病院で勤務しており、外来、病棟、健康診断と多岐にわたり診療に携わらせていただいています。

天草は3年目になりますが、以前まで勤務していた病院とは地域性なども異なり、戸惑うことも多くありました。同じ天草市立病院ではありますが、病院の規模、高次医療機関へのアクセスのしやすさなど、その地域ごとに抱えている問題は異なり、以前はこうしていたけれども今はこちらのほうが良いだろうと臨機応変に対応していく必要があり、地域医療の難しさを感じました。また、そうした地域ごとの違いが地域医療の面白いところであると思っています。

来年度は天草を離れることになり、また違う地域での診療に従事させていただくことになりました。まだまだ未熟であり、他先生方やコメディカルの方、地域住民の方々に支えられながら日々診療を行っています。そんな方々に恩返しができるように自分にできる限りのことをやっていきたいと思っています。

● 本田 宏介 先生 （専攻医2年目）

2021年度前半は、昨年度から引き続き、主に熊大病院の救急外来で研修を積みました。総合診療科の先生方や救急専門医の入江先生、田中先生を始め、整形外科、消化器外科、循環器内科、歯科口腔外科など、多くの診療科の先生方にお世話になりました。皆さんお忙しい中、快く教えてくださいました。

また、大学病院ならではの、専門性の高い疾患は各々の診療科の先生方が救外に来て診療するので、あまり手出しはできませんでしたがみているだけでも勉強になりました。この一年はとても贅沢な時間だったと思います。

2021年度後半は、天草の河浦病院で研修を積みました。この病院で初めて診た疾患はムカデ咬傷でした。他には鎌による切創、牡蠣の殻による切創、牛の角による打撲など、地域性が濃いものも多かったです。

また、ここは医師数が少なく、これまでほとんど経験がなかった当直を月7～8回こなさないといけなくなりました。最初の数ヶ月は、当直の時に5割以上の確率でCPA症例が来て、毎回緊張の連続でした。MRI機器などが無く、血液ガス分析でも大学病院より手に入る情報が少ないので、他の情報から病態を判断しないといけません。処方できる薬剤の種類もこれまでの病院より少なく、どうすれば患者さんにとって一番良いか毎日試行錯誤が続いています。

2022年度も引き続き河浦病院で研修を積むことになりました。できることを少しずつ増やしていこうと思います。

● 松岡 隼平 先生 （専攻医1年目）

こんにちは。令和3年度に総合診療専攻医プログラムを開始しました、医師4年目の松岡隼平です。1年間を通してプログラムを経験した率直な感想は「自分の求めていたものに1番近い」でした。

私はかねて医師を目指した時より、「なんでも診れる医師」を理想像として持っていました。それまで学生実習や初期研修を通して、臓器別に分け診療を行うのが当たり前の現状に若干の違和感を感じていました。専門性を突き詰めること特化した反面、Common Diseaseすらまともに診療出来ない医師を多々見てきたからです。医療全体の需要を満たすという視点で考えた時、ゼネラルな診療能力を各々の医師が持っていることはもはや必須の条件と言えます。加えて患者の退院後の生活にもしっかりコミットしたAdvanced Care Planning能力も全医師に求められる能力です。総合診療専攻医プログラムはその全医師に必須の能力を最短で学べるプログラムだと思います。これを学んだ結果、医療の全体像が捉えられるようになり医療そのものの理解が深まりました。それが自分の得た1番大きなもので、同時に自分が1番求めていたものでした。

総合診療科は今後も需要はかなり高いホットな分野だと思います。なんでも診たい、ひとつに決めることが苦手、医療全体という大きな視野を持ちたい、など動機はなんでも良いので少しでも総合診療に興味がある方は是非1度検討をしてもらえると嬉しいです。

4 教育拠点

くまもと県北教育拠点

1. 活動概要

くまもと県北教育拠点は2015年4月、公立玉名中央病院に地域医療の支援及び地域医療の実践教育を行うべく開設されました。2名の常駐寄附講座教員でのスタートでしたが、2021年3月、玉名地域保健医療センターと合併し、新たに「くまもと県北病院 くまもと県北教育拠点」として移転し、2022年3月現在、指導医4名、総合診療専門医研修の専攻医2名に加え、さらに地域医療・総合診療実践学寄附講座から人的サポートもあり、病院の診療支援および実践的な教育の提供を継続しています。

2021年卒後臨床研修プログラム研修医(基幹型1年次:4名、2年次:3名、協力型:計3名)特別臨床実習(クリニカル・クラークシップ)の「総合診療科」の受け入れも積極的に行っております。地域医療・総合診療実践学寄附講座スタッフは、医学生、初期研修医、専攻医とともに総合診療科として救急外来、一般外来、入院、在宅医療に取り組み、地域の医療を支援しつつ、実践的な教育を行っています。7年経過した現在までに、診療面については救急車不応率4%を下回り、救急車受け入れ台数も2800台/年まで増加し(いずれも県北地域最高の成績)、入院患者数も右肩上がりの業績を達成しております。その結果、2022年度の基幹型研修医は定員の8名を大きく上回る応募を受け、フルマッチも達成しました。

新型コロナウイルス感染(COVID-19)についても、田宮医師が対策委員長として指揮し、総合診療科も院内の感染対策チーム、有明保健所、郡市医師会および近隣の感染症指定病院と連携をとり、COVID-19のトリアージ業務、外来・入院診療ローテーションに感染チーム医師・呼吸器内科医師とともに参画しています。

これら診療、教育、COVID-19対策における貢献が認められ、2021年10月、田宮医師は病院長に任命されました。今後、田宮新体制の下、くまもと県北病院及び当拠点は、地域医療の発展の為、行政並びに玉名郡市医師会とも協力し、更に発展すべく、尽力する次第です。

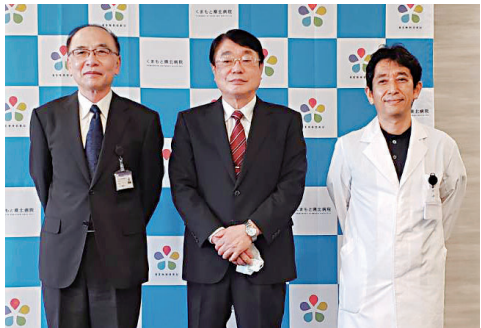
くまもと県北病院が
テレビで紹介
されました

「KKT医療ナビDr. テレビたん」にて当院の情報が放送されました。



2. 年間活動実績

月	日	行事
4	1	オリエンテーション
	11, 14, 18, 21, 25, 28	郡市医師会新型コロナウイルス会議
5	11	玉名在宅ネットワーク会議
6	1, 4, 8, 11, 15, 18, 22, 25, 29	郡市医師会新型コロナウイルス会議
7	9	玉名在宅ネットワーク会議
	2, 6, 8, 9, 13, 16, 20, 23, 27	郡市医師会新型コロナウイルス会議
8	12	玉名在宅ネットワーク会議
	3, 6, 10, 13, 17, 20, 24, 27, 31	郡市医師会新型コロナウイルス会議
9	10	玉名在宅ネットワーク会議
	25	有明地区研修医合同カンファレンス
10	1	田宮医師 病院長就任
	8	玉名在宅ネットワーク会議
11	12	玉名在宅ネットワーク会議
	2, 9, 16, 30	郡市医師会新型コロナウイルス会議
12	7, 14, 21, 28	郡市医師会新型コロナウイルス会議
1	14	玉名在宅ネットワーク会議
	4, 11, 18, 21, 25, 28	郡市医師会新型コロナウイルス会議
2	11	玉名在宅ネットワーク会議
	14	くまもと県北病院CPC
3	16	くまもと県北病院 卒後臨床研修プログラム管理委員会
	18, 25	初期臨床研修 修了式
4	1, 4, 8, 11, 15, 18, 22, 25, 29	郡市医師会新型コロナウイルス会議



3. 活動報告

① 教育活動

◆ 特別臨床実習

熊本大学医学部の1チーム3週間の特別臨床実習(総合診療科 クリニカル・クラークシップ)をくまもと県北教育拠点で受け入れています。

本年度も各学生に入院患者の担当を割り当て、それぞれが日常診療業務に医療スタッフの一員として診療に参加し、診療の中から自らのクリニカルエクステンションを見出し、これに基づいた論文検索から担当患者への適応までを期間内で実践することとし、学習成果の発表を抄読会形式で実施し、評価の場としております。

新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、時に訪問看護実習が中止されたり、実習そのものが中断されることがあり、院外実習のカリキュラムが十分に遂行できない状況がありました。そんな逆境の中でも訪れた学生は積極的に実習に参加し、コロナ禍でこそ経験できた実習を含め、最低限の成果は得られたものと考えます。

2022年度以降、依然としてCOVID-19診療を行いつつ、診療を通じた教育を更に発展させ実行する為には、科学に基づいた予防策を十分に実施し、指導医、専攻医、研修医、医学生の「屋根瓦式」の指導・教育体制が不可欠です。今後の引き続き多くの医学生が満足できる地域での医学教育の環境、質の向上に努めたいと思います。

ゆっくりだけど、確実に前進



コロナウイルス拡散増幅検査(LAMP法)の風景

くまもと県北教育拠点における週間スケジュール

1-2週					
	月	火	水	木	金
7:30			プライマリケアレクチャー	プレゼン	
8:00	救急合同カンファ	モーニングレクチャー			
8:30	医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診				
9:00	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修
13:30	外来レビュー	外来レビュー	訪問診療 or 緩和ケア回診(不定期) or 病棟研修	外来レビュー/各種講義	外来レビュー
15:00	病棟研修	リエゾンカンファ		病棟研修	病棟研修
16:30	新患カンファレンス	病棟研修			皮膚科合同カンファ
17:00	振り返り				週間振り返り
17:30	自己研修				

3週					
	月	火	水	木	金
7:30			プライマリケアレクチャー	プレゼン	
8:00	救急合同カンファ	モーニングレクチャー			
8:30	医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診				
9:00	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修
13:30	外来レビュー	外来レビュー	訪問診療 or 緩和ケア回診(不定期) or 病棟研修	外来レビュー/各種講義	外来レビュー
15:00	病棟研修	リエゾンカンファ		病棟研修	病棟研修
16:30	新患カンファレンス	病棟研修		TMEC	皮膚科合同カンファ
17:00	振り返り				週間振り返り
17:30	自己研修				

- プライマリケアレクチャー：熊本県地域医療支援機構で受講可能なオンラインレクチャー
- モーニングレクチャー：臨床のみならず、地域医療に関するレクチャー
- リエゾンカンファ：総合診療科入院患者の退院に向けての目標設定、艦長調整を多職種で検討するカンファレンス
- TMEC：クリニカルクラークシップ医学生による担当症例についての発表会



◆ 初期臨床研修(総合診療科研修)

2021 年度は公立玉名中央病院の基幹型研修プログラムに 3 名の研修医がマッチし、基幹型 2 年次 3 名と熊本大学医学部附属病院のプログラムの協力医療施設として 1 名、国立熊本医療センタープライマリケアコースの協力型として 2 名、計 9 名の初期臨床研修医(研修医)を受け入れました。くまもと県北教育拠点は、総合診療科研修および地域医療研修を担当し、指導を行いました。

まず総合診療科研修で研修医は、外来・入院・訪問診療を研修し、自らが診療の始めから終わりまでを一貫して実践し、研修医中心の参加型研修を実践しました。研修医は患者を「主治医」として担当し、指導医との連携の中で中心的な役割を担います。この事で、研修医からは「自分の患者」という意識が芽生え、責任感と医師になったことの実感が得られたとの評価を得ています。

今年度は、コロナウイルス感染拡大の影響を受けつつ、十分な予防策を取った上、可能な限りの実習を実践しました。

結果、2022 年度の基幹型卒後臨床研修医は定員 8 名を大幅に上回る応募を受け、フルマッチを達成しました。

◆ モーニングレクチャー

モーニングレクチャーとは…

*各診療科、部署のエキスパートから実践に即した知識や技術を学ぶ場です。写真は、眼科医による眼底鏡の使い方指導の風景です。

*指導は医師に限らず、様々な職種のスタッフに協力していただき、幅広いテーマの研修が可能となっています。



◆ 講演会・セミナー

コロナウイルス感染の蔓延で講演会・セミナーの中止が相次ぎ、研修医の発表の機会が制限されました。その中で「有明地区研修医合同カンファレンス」「九州地域医療教育研究会」「日本プライマリ・ケア連合学会九州地方会」は WEB 開催となり、初期研修 1 年次の嶋永先生と 2 年次の田添先生が症例発表を行いました。

◆ 総合診療専門医(専攻医)研修

くまもと県北教育拠点およびくまもと県北病院では、熊本大学病院 総合診療専門医研修プログラムの「総合診療Ⅱ」、「内科研修」、「小児科研修」および「救急研修」を実施しており、2021 年度は 2 名の専攻医が研修しました。彼らは自らの診療研修にとどまらず、初期研修医、医学生の教育の一端を担っています。この為、病院機能もかなりの部分で専攻医に依存する部分も多くなっており、専攻医の負担を軽減するシステムの構築(働き方改革)と総合診療専門医研修プログラムへのリクルートは重要になっています。

Ⅱ 診療

くまもと県北病院で、総合診療科での外来および入院診療を行っています。また、他診療科からの相談(院内コンサルテーション)や救急診療にも携わりました。

総合診療科での診療に当たり、くまもと県北教育拠点到常駐する指導医 4 名(内科専門医・指導医、プライマリケア認定医・指導医、病院総合診療認定医・指導医、リウマチ専門医)、スタッフ医師(総合診療専門医、家庭医療専門医、血液内科専門医)の他、研修医、地域医療・総合診療実践学寄附講座の教員も外来診療、救急医療に携わりました。

くまもと県北病院 総合診療科外来担当医表

月	火	水	木	金
小山	小山	田宮	松井	小山
草野	久保崎	草野	小山	久保崎
松岡	松岡	下地	久保崎	下地
佐藤(午後)				佐藤(午後)

Ⅲ 年間診療報告

玉名拠点開設から 7 年目となりますが、医学生、初期研修医、専攻医および地域医療・総合診療実践学寄附講座スタッフがチームを形成し、総合診療科外来として外来診療および他診療科からのコンサルト対応を行うとともに、平日の救急外来を担っています。コロナ禍で受診控えで受診患者数が減少する中でも、入院患者数は徐々に増加傾向にあります。

また、救急診療では受入件数も一時減少しましたが、徐々に増加傾向に転じており、不応需率も依然として低い値を推移しています。



2021 年度 研修医 全 9 名

くまもと県北病院基幹型：6 名(1 年次：3 名、2 年次：3 名)

熊大病院：1 名(1 年次)

熊本医療センター：2 名(2 年次)

天草教育拠点

1. 活動概要

天草教育拠点は、多くの方々のご尽力により、熊本大学病院地域医療・総合診療実践学寄附講座の2番目の学外教育拠点として、玉名教育拠点に引き続き2019年4月に設置されました。2021年度は2名の常駐寄附講座教員で運営しました。

設置の目標としては、①総合診療科としての天草地域の特性を踏まえた形での医療貢献②地域医療を含めた卒前卒後教育の充実、です。

医療貢献という点では、天草地域医療センター総合診療科として、おもに2次医療機関としての病院総合医の役割を担っています。天草地域の小病院、クリニックなどから紹介していただき、主に紹介外来としての一般外来を毎日行っています。また、入院診療、救急外来、少数ですが在宅医療も行っています。教育に関しては、2021年度はクリニカルクラークシップとして、10名以上の学生受け入れを行いました。また、2人の院外の初期研修医の受け入れも行い、昨年よりもさらに前進しました。そのような学生や研修医、また、昨年同様、地域医療実習の学生の一部、早期臨床体験実習の学生には、実臨床での実践的な教育、地域の特性を理解しつつ目の前の医療に落とし込む地域医療の教育などを行ってきました。

今後も、天草地域医療センター総合診療科に対して特に地域医療機関や院内から求められることは、主に病院総合医(特に総合内科分野)としての役割だと思います。今後も地域医療機関や院内のニーズも考慮しつつ、教育拠点としてできること、現状のマンパワーでできることを考えていく必要があると思います。

2. 年間活動実績

- 毎月2回 WEB症例検討カンファレンス
- 毎月2回 合同WEBカンファレンス
- クリクラ受け入れ 10名程度

3. 活動報告

① 教育活動

◆ 特別臨床実習

熊本大学医学部では、1チーム3週間の特別臨床実習(クリニカルクラークシップ)を実施しており、地域医療実習として天草地域医療センターに1チーム1～2名の5年生が実習に来ています。このうち、実習中は1週間毎に各科を選択できるため、総合診療科を選択した学生を担当いたしました。

また、総合診療科としてのクリニカルクラークシップ受け入れも開始し、3週間の期間で7名に来てもらいました。

内容としては、入院患者の担当を割り当て、指導医と直接相談しながら医療チームの一員として積極的な診療参加を促しました。また、毎朝のカンファレンスでプレゼンテーションを行いました。外来、救急では、初診患者の病歴や身体所見などから検査計画や診断、治療につなげるトレーニングを担当医とともに行いました。さらに、天草の地域性も考慮し、通院にかかる時間や交通機関などの影響、普段の生活の状況把握、保健福祉なども含めた地域リソースの把握の重要性など、総合診療学的な内容も症例から直接的に学ぶ機会を設けました。

総合診療科としてのクリニカルクラークシップとして来た学生は、担当患者から患者中心性について興味を持ち、実習終了に際し科内で発表してもらいました。

◆ 初期臨床研修医

天草地域医療センターの初期臨床研修医からは総合診療科での学びは大変好評で、ほぼ毎月ローテーションする研修医がいる状態でした。

指導医と連携しながら入院患者を担当し、医療チームの一員として積極的に診療に参加しました。また、地域志向、患者中心の医療、家族志向などの総合診療学的な内容も症例をもとに学びました。

ローテーションの最初に学習目標を設定した上で、2週間毎に個別面談を行い、具体的な診療内容の振り返りと、より高いレベルに到達するためにはどうすればよいのかフィードバックしました。ローテーションの最後には終了まとめを行い、当科での研修の総括を行います。

◆ 総合診療後期研修医

総合診療研修プログラムのうち「総合診療Ⅱ」を担当しています。専攻医はこの1年は不在でした。

今後も、玉名、大学とも連携しつつ、熊本全体で専攻医の充実した後期研修医指導を行える体制を作っていきたいと考えています。

Ⅱ 診療

- 外来担当
中村：月・木
松本：水・金
火：空田、鶴田(隔週)、谷口(隔週)
- 救急担当
適宜(その日外来担当でない医師)

Ⅲ 年間診療報告

昨年に引き続き地域の先生方からは、「何科に紹介すればいいか悩む症例を紹介しやすくなった。」「原因のわからない症状でも相談できて助かる。」等のありがたい評価もいただいています。また、COVID-19感染対策についても、発熱外来などで対応しています。当院の総合診療科は、二次病院における病院総合医の役割として、

- ・医師会の先生方と密な連携をとり、天草の地域医療へ貢献をする事
- ・院内で専門医の負担軽減を目指しつつ院内連携を強化する事

が重要な役割だと考えています。

外来・入院で診る疾患としても多分野に及び、悪性疾患(悪性リンパ腫、白血病、胃癌、大腸癌、肝細胞癌、管内胆管癌、尿管癌、肺癌反回神経麻痺など、各種疾患の診断や各科への紹介、末期患者の緩和治療など)、感染症(EBV 伝染性単核球症、百日咳、マイコプラズマ、カポジ水痘様発疹症、深在性真菌症、日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、椎体炎・椎間板炎、腸腰筋膿瘍、感染性心内膜炎など)、膠原病関連(関節リウマチ、シェーグレン症候群、ベーチェット病、リウマチ性多発筋痛症、巨細胞性動脈炎、ANCA関連血管炎など)、運動器疾患(圧迫骨折、各種骨折や外傷、解離性運動麻痺など神経障害など)、ほかにも悪性貧血、ネフローゼ症候群、肝硬変、気胸、乳糖不耐症、めまい症、認知症、アナフィラキシーなどがあります。それぞれ、外来や入院で診断をつけて適切な科に紹介したり、当院で入院治療や外来フォローアップを行ったりしています。

現在当科が行っている取り組みの一つとして、ST、管理栄養士、認定看護師等と連携し、摂食嚥下チームとして、嚥下造影検査の検査数増加、嚥下機能についてアドバイザーとして地域ケア会議への参加なども行っています。

Ⅳ セミナー

部長代理の松本がリーダーとなり、「熊大総合診療セミナー」を主催していました。

2021年度は年間を通して計4回の開催となり、会を重ねるごとに参加者が増えており、若手からの総合診療を学ぶことのニーズを実感しております。

河浦教育拠点

1. 活動概要

河浦教育拠点は2021年4月に設置されました。玉名教育拠点、天草教育拠点に引き続き3番目の教育拠点ですが、前の2つが二次医療機関での病院総合医タイプであるのに対し、河浦教育拠点は過疎地域の小規模病院におけるプライマリケアタイプの教育拠点です。少子高齢化で様々な職種の人的資源が少ない中、総合診療科医として効率よく地域づくりに貢献できるよう、日々奮闘しています。また、地域医療を行っていく中で、実践的な教育を行っていく予定です。4月に常勤の寄附講座教員1名でスタートしています。10月からはレジデント1名が派遣となり、日々、研修に励んでいます。

2. 年間活動実績

- 4月 1日 河浦拠点開設式
- 8月 6日 住民講座
- 8月 17日 自立支援型地域ケア会議従事者研修会
- 12月 2日 在宅医療サポートセンター会議
- 12月 8日 しきちの会
- クリクラ受け入れ1名
- 初期研修医地域医療研修3名

3. 活動報告

① 教育活動

◆ 学生

熊本大学の特別臨床実習(クリニカルクラークシップ)「地域医療」枠では1ターム3週間の実習があり、今年から、河浦拠点も研修場所になりました。コロナ禍のため、なかなか臨床現場での実習ができない状況もあり、今年度は1名の実習で終わりました。実習中は、へき地での地域医療の現実を体験してもらい、学生なりに考えてもらいました。終了日には学生発表をしました

◆ 初期研修医地域医療研修

赤十字熊本病院より1か月ずつ3名の研修医が派遣されました。2次医療機関とは違う、限られた資源の中での外来診療、入院診療、そして在宅診療を経験してもらい、それぞれにフィールドの違いによる仕事の視野の違いを感じてもらいました。また、この地域だからこそその歴史遺産見学や陶器見学、釣りなども体験してもらいました。

◆ 後期研修

10月から1名派遣されました。単に患者数を増やすことや収益を上げることを目標とせず、研修医の成長過程、臨床能力に適した診療負担となるよう診療を調整しつつ、徐々に患者数を増やしてきています。日常業務の多忙さのため予定通りできないこともあります。毎日昼に担当患者についてのカンファレンスを行い、プレゼンテーションを行っています。

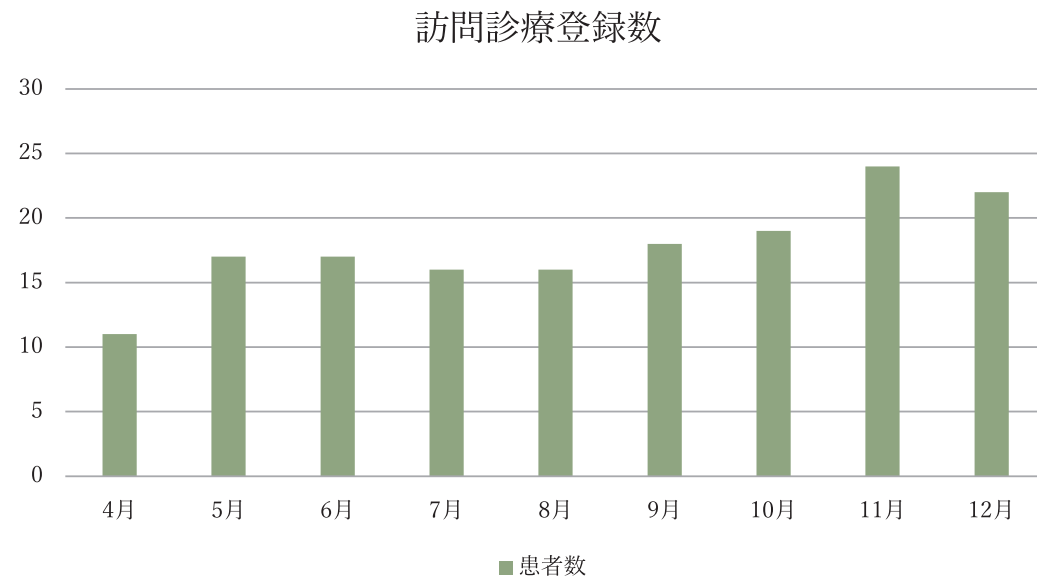
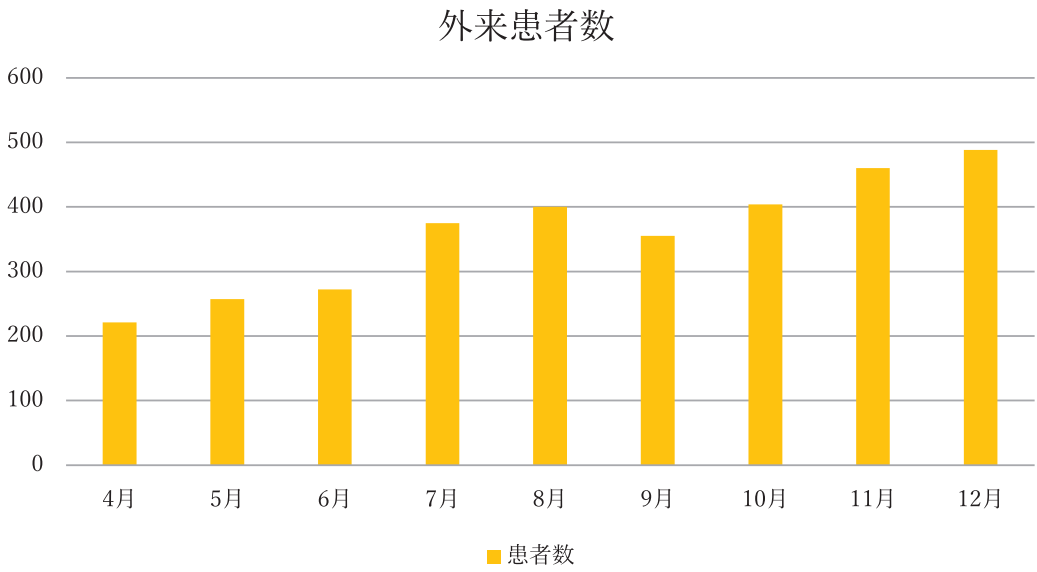
また、当院には自治医出身の若手医師もいるため、一緒に小勉強会を不定期で行い、高血圧、糖尿病といったプライマリケアには欠かせない慢性疾患の勉強も行っています。

② 診療

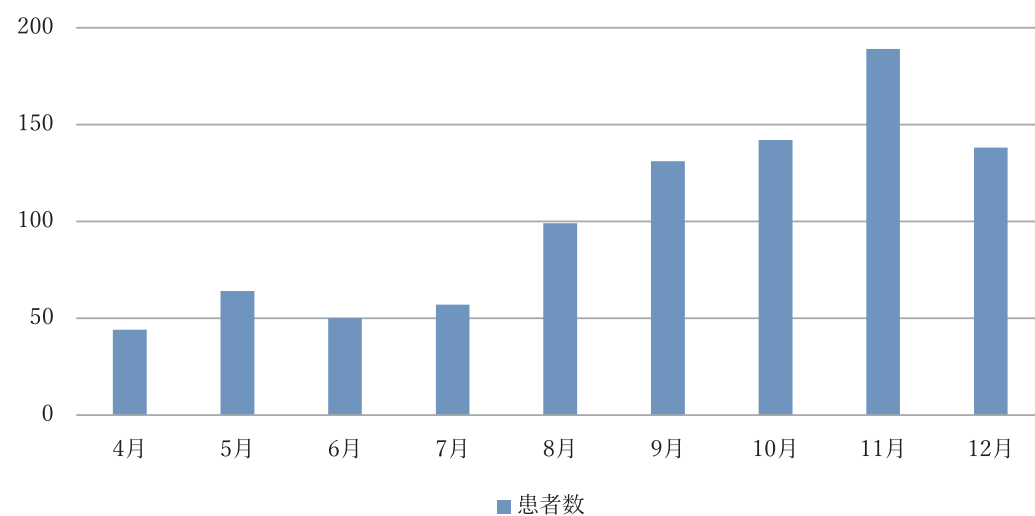
月・水・金 鶴田（初診＋再診）
火・水・木・金 本田（主に初診）
訪問診療はチームで分担 火・水・金

③ 年間診療報告

河浦病院はもともと外科、内科、整形外科で形成されていましたが、へき地の小規模病院であるため、診療科による患者層の違いはあまりありません。総合診療科が活躍するにはベストなフィールドのひとつです。2021年4月より総合診療科の診療が開始し、さらに10月からはレジデントが一名加わり、診療患者数は徐々に伸びてきています。今後、診療を続ける中で総合診療科の認知度上昇、地域への貢献度の上昇ができればと思います。



1日あたり一般病棟入院患者



IV セミナー



住民講座の様子



しきちの会の様子



在宅医療サポートセンター会議の様子



研修医発表会の様子



在宅医療チーム

5 熊本県医師修学資金貸与制度

1. 地域医療ゼミ

I 概要

熊本県医師修学資金貸与制度を利用している学生は40名おり、毎月1回、地域医療に関する興味・関心を深めることを目的として、学生達で企画した内容を中心に「地域医療ゼミ」を開催しています。

今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、主にリモート（Zoom）での開催となりました。そのような中、遠隔地の講師によるセミナーの開催等、オンラインの利点を生かしたゼミを開催することが出来ました。なお、第1回ゼミは、新入生の歓迎をかねて対面で実施し、自治医大生、県外卒の学生も参加できるようZoomも対応できるハイブリット方式で、また、第11回ゼミは、6年生の卒業を祝って追出しゼミとして対面で実施しました。

1年生	5人
2年生	5人
3年生	6人
4年生	7人
5年生	5人
6年生	12人

II 活動報告

◆ 第1回地域医療ゼミ(2021年4月15日／対面とオンラインのハイブリット方式で開催)

新たに熊本県医師修学資金貸与学生として入学した1年生と自治医大の1年生の自己紹介、学年を超えたグループを作って歓談を行うなど、学生間の親睦を深めました。

◆ 第2回地域医療ゼミ(2021年5月20日／オンラインにて開催)

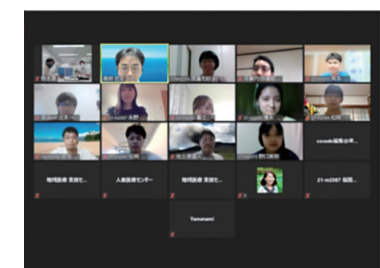
漫画「19番目のカルテ」を読んで参加者で感想を述べあうなどディスカッション(マンガメデュケーション)を実施しました。コロナによりキャンパス内立入禁止となった為、急遽オンラインで開催可能なマンガメデュケーションへ変更でしたが、総合診療医の仕事について参加者の理解が深まることを期待しています。

◆ 第3回地域医療ゼミ(2021年6月17日／オンラインにて開催)

「臨床推論」をテーマにゼミを実施しました。参加者は、臨床推論のやり方についてレクチャーを受けた後、グループに分かれて、実際の症例を基に診断仮説を立てて各グループの考えを発表しました。

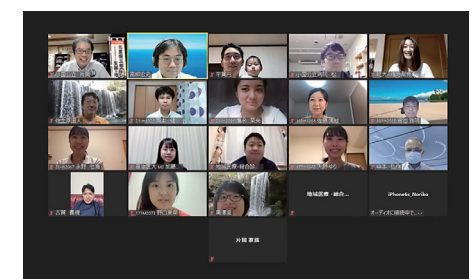
◆ 第4回地域医療ゼミ(2021年7月15日／オンラインにて開催)

修学資金貸与学生の企画で阿蘇地域の地域医療について考えました。阿蘇地域を3つに分け、3つのグループに分かれた学生たちが、それぞれアウトブレイクルームを活用してディスカッションを行い、各地区の特色に応じた問題点等を話し合いました。



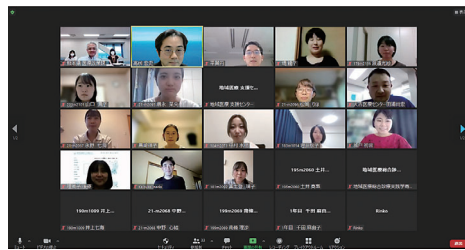
◆ 第5回地域医療ゼミ(2021年8月24日／オンラインにて開催)

新型コロナウイルス感染症に脅かされている現在において、小国町出身の北里柴三郎先生の功績から人々がどのように感染症と向き合ってきたか、小国公立病院の片岡恵一郎先生に、北里柴三郎先生の生涯、功績について講演いただきました。また、小国町で日々コロナ対応されている小国公立病院の松田圭史先生に日々の新型コロナウイルス対応についてお話しいただき、現在の新型コロナウイルス感染症との向き合い方を学びました。



◆ 第6回地域医療ゼミ(2021年9月16日／オンラインにて開催)

医師としてのキャリアと義務の両立だけでなく、ライフイベントが重なった場合にはどのようにできるのか、そのために準備は何か必要なのか等々の学生の疑問に答えるため、地域の病院でご活躍中の公立多良木病院の堤 龍子 先生をお招きして、女性医師としてのキャリア・ライフプランについて講演いただきました。



◆ 第7回地域医療ゼミ(2021年11月27日／対面にて開催)

令和2年(2020年)1月に策定された『熊本県医師修学資金貸与医師キャリア形成プログラム』の更新にあたって、変更しようとするコース案の内容について、対象となる学生や医師の意見交換会を実施しました。

◆ 第8回地域医療ゼミ(2021年12月16日／オンラインにて開催)

今回は、自治医科大生の企画で、実施しました。自治医科大の概要について説明を受けた後、地域医療で必要と思われるスキルや学生時代にやっておくべきことは何か、などについて参加者がグループに分かれて話し合いを行いました。また、地域医療の現場で活躍される先生、また、最先端の研究活動を行っておられる先生自治医大卒の4人の先生方へのインタビューも紹介されました。

◆ 第9回地域医療ゼミ(2022年1月24日／オンラインにて開催)

熊本県医師会が主催し、熊大病院地域医療支援センターと日本医師会が共催となる「令和3年度医学生・研修医等をサポートするための会セミナー」に参加しました。今回のテーマは、「専門医を取得する！」で、「総合診療専門医取得に向けて」、「内科専門医制度について」、「未来を創る子供たちを守るのが小児科専門医」と題して3人の先生から講演いただきました。

◆ 第10回地域医療ゼミ(2022年2月2日／オンラインにて開催)

地域医療・総合診療実践学寄附講座が主催する第18回総合診療グランドラウンドに参加しました。「事例から深める総合診療 イギリスと日本の比較」の演題で、イギリスと日本両国の診療に通じておられるNTT東日本関東病院の佐々江龍一郎先生に講演いただき、今後の日本の総合診療専門医について考える機会を得ることが出来ました。

◆ 第11回地域医療ゼミ(2022年3月24日／対面にて開催)

今年度最後となったゼミは6年生の追いゼミとして、対面による開催となりました。学生29名が参加し、卒業生挨拶、花束贈呈で6年生の卒業を祝いました。また、皆勤賞、功労賞の表彰、次年度より新たな幹事学年となる4年生代表からの挨拶や来年度の地域医療ゼミの実施計画についても説明がありました。



2. 令和3年度卒業生

● 村上 考利

私は8年間という少し長い期間、大学にお世話になりましたが、振り返ってみるとあっという間の学生生活でした。その中でも地域医療ゼミでの活動の思い出について、卒業というこの節目に思い起こさせて頂きます。

最も印象に残っているのは、1年生の夏季実習です。当時は基礎医学を学習し始めたばかりで、ましてや臨床の知識など微塵も持たない状態での実習でした。それどころか、宿泊合宿ということで楽しそうだな、という気持ちで参加していたのを記憶しています。しかし実習が始まると、当時の実習地である阿蘇の地域医療について学ぶことから始まり、阿蘇医療センターでは実際に実習させて頂いたり、医学部に入学してから初めて臨床というものに触れる機会を頂きました。特に実習の中でも地域医療の現場を体験できることは、卒業を控えた今考えても貴重な経験だと感じます。見知らぬ施設や機械から始まり、実際に診察する様子、行われる手技の数々…全てが新鮮で興味深いものでした。やはり初めて実習をした時のことというのは大変印象に残っており、当時の経験から今思う理想の医師像が形作られたのかなと思います。高学年になってからは、テストやコロナもあり中々実習の機会に恵まれませんでした。そのため、もう少しゼミに参加するようにすればよかったなという後悔もありますが、研修医になってからも初めて実習した時の気持ちを忘れず、何事も自ら積極的に取り組んで行きたいです。

最後になりましたが、地域医療・総合診療実践学寄附講座の先生方、スタッフの皆様をはじめ、実習等でお世話になりました多くの方々に心より感謝申し上げます。8年間という長い学生生活、ご迷惑をお掛けすることも多々あったかと思いますが、暖かくサポートして下さい、大変お世話になりました。今後は医師として微力ながら熊本に恩返し出来る様、日々医療に邁進して参ります。

● 鶴田 恵理

6年間はあっという間で、テストや部活、バイトに明け暮れるうちに気づけば卒業の日が迫っていました。特にこの2年間は新型コロナウイルスの影響もあり、一瞬で過ぎ去っていったように感じます。最初に地域医療・総合支援実践学寄附講座の方々にお会いしたのは入学前の追いコンのときで、緊張して参加したのですが、先輩方とお話させていただく中でみなさんの温かい雰囲気を感じました。

地域医療ゼミでは上級生の方々と臨床推論をしたことが記憶に残っています。1年生のころ参加したときは基礎の知識もない状態で、何かなんだか全く分からなかったのですが、5年生の方に臓器の働きから説明していただきながら最後の診断まで一緒に考え、先輩方が偉大な存在に感じたのをとても覚えています。

夏季実習は毎年異なる地域に伺い、多くのことを学ばせていただきました。夏季実習では学年を分けて実習する機会が多く、低学年時は病院や診療所というよりも、老人ホームや保健センターといった場所に行くことが多かったです。当時は現場で働く方々のお話を伺うことで精一杯でしたが、今振り返ってみると、将来同じ職場ではなくても、地域で医療をしていく中でかかせない方々がどのようなところでどういうことをされているのかを間近で見、実際に体験することができたのは貴重な経験だったと思っています。学年が上がってからの夏季実習には、テストやコロナなどで参加することはできませんでしたが、大学の实習などで地域の病院に行く機会があり、入学当初は漠然としていた「地域で働く」ということが、少しずつ自分の中で想像することができるようになりました。

最後になりましたが、地域医療・総合支援実践学寄附講座の先生方、スタッフの方々には、6年間大変お世話になりました。地域ゼミや夏季実習を通して学んだことを活かしながら成長していけるよう頑張ります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

● 白奥 光一

気が付くと早いもので、卒業となることになりました。入学したての頃は卒業まで6年もあり、とても遠いと思っていたのですがあっという間でした。近年は新型コロナウイルスの影響もあり、大学の实習や対面での授業にも支障をきたす場面もありました。また、地域医療ゼミや夏季の地域実習なども一部中止となり大変残念でしたが、今まで多くの実習に参加させていただきとても勉強になりました。

6年間の振り返りとして、入学したての頃は地域医療についてどういったものなのか曖昧でしたが、大学での地域実習や地域枠での地域医療ゼミや夏季の地域実習などを経験していくにつれて地域でどういった医療が求められているのか、この地域ではどういった特徴があるのかなど、実際に現地で実習をすることで得られるものがたくさんありました。また、学年が上がっていくにつれて、必要になっていく医療の知識がどんどん増えていき、勉強しなければならないことがたくさんあると感じました。

また、在学中には熊本での地震や人吉での水害などありましたが、多くの方と共に協力し合い乗り切ることができました。当時は不安などもありましたが、様々な経験をすることができました。特に熊本での地震の際は1年生として入学したてで、当時はまだ知り合ったばかりの同級生と助け合ったり、顔を合わせたことがなかった先輩方にも助けていただいたりとお互いに協力し合うことの大切さと暖かさを感じました。

近年は新型コロナの影響もあり、以前と学業や生活ががらりと変わってしまった部分も多くあると思います。これからも実際どのように変わっていくのかは分かりませんが、もし困っている方がいれば自分から手を差し伸べることができるような人間になればと思います。

最後になりましたが、地域医療支援センター、地域医療・総合診療実践学寄附講座の先生方やスタッフの皆様には大変お世話になりました。また、地域医療ゼミや夏季の地域実習などでも多くの方にお世話になりました。今後もよろしくお願いいたします。

● 佐藤 実紗

月日が経つのは早いもので学生生活も終わりを迎えようとしています。先日国家試験を終え、現在は卒業と新生活の準備を少しずつ進めているところです。

私たちは入学直後に熊本地震があった学年であり、大学の授業が始まる前にしばらく同級生と会えない生活が続いていましたが、そのときに地域医療ゼミの事務の方が安否を気にかけてくださり本当に感謝しております。

6年間の活動の中で最も印象的なのは夏季地域実習です。地域に実際に出向いてその場所で実際に暮らす方々や診療していらっしゃる先生方のお話を聞くことは普段の実習ではなかなかできないことで、とても密度の濃い時間でした。医療資源が限られる地域では、診療において教科書的な判断ではなく実際にはその方の家族背景等を加味して考えることが大事だということも勉強になりました。また実習では自治医科大学の方と話す機会が多くありとても楽しかったです。またこれからも頑張ろうというモチベーションになっていました。

普段の地域医療ゼミはコロナ渦の中ではオンラインという形で先生方が企画を考えてくださり、多くの先生方のお話を聞くことが出来ました。すでに卒業された地域枠出身の先生がどんなキャリアを歩まれているかを話してくださる時間もあり、自分がどんな方向に進んで行くのかをイメージしやすくなりました。

6年間多くの方に支えられて勉強や部活、遊びどれも全力で取り組むことが出来ました。これからは今までの生活とは一変し社会人としての生活が始まりますが、周りへの感謝を忙しい日々の中でも忘れないように過ごしていきたいです。

地域医療・総合診療実践学寄付講座の先生方、事務の方々、そして県の医療政策課の方々、これまで多大なるご支援をいただき誠にありがとうございました。おかげさまで安心して大学生活を送ることが出来ました。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

● 武元 勇人

入学当時、大学生活6年間はとても長いだろうなと思っていましたが、あっという間に卒業となっていました。この6年間でふり返ってみると、とても充実し学びの多い6年間でした。入学したての1年生の頃は医学の知識もほとんどなく、上級生の先輩方に様々なことを教わりながら地域ゼミに参加していました。自分が上級生になって、あの頃先輩たちから教わったことを思い出すことで、勉学への理解がより一層深まったことも多々ありました。また、後輩たちに地域ゼミをどのようにして楽しんでもらうかを考えることは予想以上に難しく、先輩たちの偉大さを感じました。

さらに夏季実習では、自治医大生と共にフィールドワークや意見交換会などを通して地域医療の現状を

知るだけでなく、熊本地震や水俣病といった熊本の医療に携わっていくうえで知っておくべき出来事も、実際にその地域に足を運び深く学習したことはとても印象に残っています。

このようなゼミや夏季実習で様々な学びや地域の医療に携わる人たちの考えに接していくうちに、初めのうちはぼんやりとしていた地域医療についてくっきりとしてきて、その中で自分が将来どのように地域医療に携わっていけばいいか、また、どのようにすれば地域の医療に貢献できるかなどの考えが年々具体的になっていきました。これもすべて地域ゼミの機会を設けてくださった多くの方々のおかげであり、これらを通して考えたことや感じてきたことを活かしてしっかりと地域の医療に貢献をしていけたらと思います。

● 高橋 啓太

長い道のりに思えた6年間の大学生生活は小学校の6年間とは違い、あっという間に過ぎてしまいました。大学に入学した6年前、今の自分の姿を想像することはできませんでした。

入学式が終わり学年での合同合宿で同級生のことを知って、これからスタートだというタイミングで熊本地震が発生しました。ライフラインが止まり、1日1日の生活を考えながら過ごしていたら、あっという間に5月になっていました。この1ヶ月はこの6年間で最も短く感じた1ヶ月でした。

毎月開催される地域医療ゼミや夏季実習は、学年の垣根を越えて地域医療を深く考える特別な時間でした。特に印象に残っているのは、夏季実習で益城のテクノ仮設団地に訪問生活調査を行ったことです。皆で麦わら帽子をかぶり、1軒ずつお話を伺ったあの時間を忘れることはありません。その日宿泊した阿蘇の露天風呂が非常に気持ちよかったことも忘れないでしょう。ここ2年間は新型コロナウイルスの猛威により夏季実習は開催されていませんが、地域枠で入学したからこそ、学生のうちに県内各地域の医療や産業、食を自分の体で感じる事ができたと思います。

新型コロナウイルスの影響は病棟実習にも及び、リモートでの実習期間も長引きました。自分の目で見て手を動かす経験は通常より減りました。国試直前期も大学の図書館や勉強部屋が使えないなどありましたが、地域医療・総合診療実践学寄附講座の先生方やスタッフの皆様のサポートもあり、無事に卒業の日を迎えることが出来そうです。6年間ありがとうございました。今後とも宜しく願い致します。

● 持田 香織

6年前に入学したときには、卒業はとても先のことだと思っていましたが、卒業を間近に控えた今振り返ってみると本当にあっという間の6年間でした。そしてこの6年間で数えきれないほど様々な経験をすることができました。6年間の地域医療ゼミ中でも特に印象に残っていることは、夏の地域医療特別実習と5年次のゼミです。

夏の地域医療特別実習は毎年異なる地域で実施されているため、複数の地域を比較しながら学び、同じ熊本とはいえ異なる特性や課題点を実際に自分の目で見て感じて学び取ることが出来たことは、大変貴重な経験でした。卒後地域で従事させていただく際にも、その地域を知り、そして地域に寄り添った医療を行えるよう、夏季実習から得た学びを活かしていきたいと考えています。

5年次には幹事学年として地域医療ゼミを運営することとなりましたが、ちょうど新型コロナウイルスが猛威を振るいはじめた頃で、例年のように4月からスタートを切ることが出来ませんでした。先生方にサポートしていただいたことで、Zoomを使ってゼミを行うことができました。それまでの対面でのゼミを踏襲しつつZoomでも可能なやり方で行うことは大変でもありましたが、4年までと違い自分たちで内容の提案を行うために、将来地域に従事する医学生として学ぶべきことは何か、今の自分たちに足りないことは何かをより深く考える機会となり、大変学びの多い1年でした。

6年間の学生生活を終え、スタートラインに立つこととなりますが、大学で培った経験や多くの学びを糧とし、これからも少しずつ前に進んでいけるよう精進したいと思います。

6年間本当に沢山の方々にお世話になりました。関わって下さいました全ての方々に心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

● 吉岡 幸英

入学時には長いと思っていた6年間も、今振り返ってみるとあっという間のように感じています。入学して数日の地震に始まり2年間のコロナ禍での病院実習で終わるという通常では体験することのできない、濃い6年間を過ごすことができたと思います。この6年間で金銭面などの憂いなく過ごすことができたのも、熊本県医師修学資金制度を利用させていただいたおかげであり、大変感謝しております。地域枠の活動としては1年次の夏季地域医療特別実習が特に思い出に残っています。前述した震災直後ということもあり、益城町に設置された仮設住宅にて聞き取り調査をさせていただきました。この聞き取り調査で、普段生活している中では気付くことができないほどに当たり前に存在している、住んでいる地域で形成されたコミュニティの重要性を学ぶことができました。この経験は自分の中で地域医療について考えるきっかけとなりました。まだ医療については何も学んでいないと言っても過言ではないような1年生ではありましたが、このような機会に早めに恵まれて良かったと思います。

また、毎月開催される地域医療ゼミでは医療関連の知識を深めるだけでなく、物事の考え方についても学ぶことができました。参加させていただいた多くの会で様々な角度から「こんなことに疑問を持ってみてはどうだろう」という導き方をされていて、疑問を持って物事を見ていくことで理解が深まっていくのを実感することができました。他にも、あえて低学年の学生を指名して発表をする場面を与えてくださるのは、人前での発表を苦手としていた自分にとってはとても良い経験になりました。

ここに書いたこと以外にも多くのことを熊本県医師修学資金制度を利用させていただいたおかげで学ぶことができました。来年度からは医師としてここで学んだことを活かしていくよう努めて参りますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

● 五江淵 景明

自分は地域医療ゼミには2年生から参加させて頂きました。大学生活の後半は新型コロナウイルス感染症の流行があり、ゼミの活動も制限されてしまいましたが、地域医療ゼミでは多くのことを学ばせて頂きました。

毎月の地域医療ゼミでは、実際に地域医療に従事されている先生方のお話を拝聴したり、専門医制度や自分のキャリアについて考えたり、その他シネメディケーションなどを通じて学年を超えて多くの方と議論したりと、色々な角度から医療というものを考えることができ、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。

また、色々な活動の中でも特に印象に残っているものはやはり夏季実習です。私は天草と水俣の2回の実習に参加させて頂きました。県外出身の私にとって、自分が将来仕事で関わるかもしれない県内の地域医療の現場に行くことはとても貴重な経験となりました。実際に地元の方たちとお話したり、問題点等も含めて地域の実情を自分の目で見たりすることで、医療だけではなく文字通り地域そのものについて理解を深めることができました。

夏季実習に参加する前の私は、地域医療とは基本的には住民の高齢化が進んでおり、医師や医療設備が十分でない地域で行われる医療である、という漠然としたイメージしか持っていませんでした。そして、どこの地域でも抱えている問題は程度の差こそあれ、大きな違いはあまりないのではないかと考えていました。しかし、夏季実習に参加したことで、一口に地域医療と言っても、住民のライフスタイルや医療に関する考え方、疾病構造等は地域ごとにそれぞれ異なるということを身をもって実感できました。今後医師となって地域医療に従事する際には、目の前の患者さんは勿論のこと、それ以外にもその地域に関する様々なことに関心を持って地域医療に取り組んでいきたいと思います。

最後になりますが、長きに渡り貴重な学びの機会を提供して下さいました先生方、関係者の方々には感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座

1. 活動概要

本講座は、熊本県の地域医療連携ネットワーク構想を推進するため、県知事が各医療圏域に指定する「地域医療拠点病院」への医師派遣により専門医療を実践するとともに、医師会や行政と協力しながら地域医療連携強化に努め、また、医師修学資金貸与医師や自治医科大学卒業医師へのキャリア形成支援、各医療圏域における医療機能の向上を図るための調査・研究を行うことを目的に、熊本県の寄附を得て、令和元年度から令和3年度までの3年間で予定して設置されました。これまでの実績に基づき、令和4年度からさらに3年間、設置が継続されることとなりました。

本年度は、熊本大学病院の各診療科より選出された24名の専門医が当講座に所属し、ネットワーク推進医として地域医療拠点病院に派遣されました(下表)。

令和3年度（2021年度）地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座 教員等一覧

部門	診療科名	定数	特任教員氏名 (ネットワーク推進リーダー)	職名	派遣先拠点病院
内科	腎臓内科	12	泉 裕一郎	特任准教授	宇城総合病院
	呼吸器内科		猪山 慎治	特任助教	人吉医療センター／山鹿市民医療センター
			坂田 晋也	特任助教	阿蘇医療センター／荒尾市民病院
			赤池 公孝	特任助教	小国公立病院／荒尾市民病院
			階子 俊平	特任助教	くまもと県北病院
	消化器内科		具嶋 亮介	特任助教	阿蘇医療センター／熊本労災病院
			宮本 英明	特任助教	山鹿市民医療センター
	血液内科・膠原病内科		上野 二菜	特任助教	人吉医療センター
	糖尿病・代謝・内分泌内科		小野 薫	特任助教	小国公立病院／上天草総合病院
	循環器内科		石井 正将	特任助教	公立多良木病院
			平川 今日子	特任助教	上天草総合病院
			伊藤 美和 (R3.4～R3.8) 尾池 史 (R3.9～R4.3)	特任助教	上天草総合病院
外科		消化器外科	江藤 弘二郎	特任助教	水俣市立総合医療センター
	美馬 浩介 (R3.4～R.3.9) 小川 克大 (R3.10～R.4.3)		特任助教	熊本再春医療センター	
	乳腺・内分泌外科 泌尿器科	後藤 理沙	特任助教	水俣市立総合医療センター	
		脊川 卓也	特任助教	人吉医療センター	
成育医療	小児科	2	松尾 倫	特任助教	小国公立病院
			宮村 文弥	特任助教	小国公立病院
感覚・運動	整形外科	5	徳永 琢也	特任助教	小国公立病院
			久永 哲	特任助教	宇城総合病院
			湯上 正樹	特任助教	阿蘇医療センター
	眼科		中島 圭一 (R3.4～R3.5) 福島 亜矢子 (R3.6～R4.3)	特任助教	小国公立病院／熊本総合病院
			福島 亘希	特任助教	小国公立病院／熊本労災病院
脳・神経・精神	神経精神科	1	本田 和揮	特任助教	熊本県立こころの医療センター
合 計		24			

2. 活動報告

◆ 地域医療拠点病院における専門医療の実践

ネットワーク推進医は、各地域医療拠点病院で不足する専門診療に応じて、週1～2回、定期的に外来診療や救急当直診療を行いました。また、常勤医師と協力して、入院患者への専門的診断と治療を提供しました。拠点病院に勤務する専攻医などの若手医師に対しては、医療技術の指導などを行いました。より高度な医療を必要とする際には、熊本大学病院などの高度医療機関に適切に紹介、転院を進める橋渡しの役割を担ってきました。さらに、ネットワーク推進医の派遣は、拠点病院の常勤医が近隣の診療所へ赴き業務を行う「玉突き派遣」体制の確立にも貢献しました。そのほか、隣接する拠点病院に派遣された専門の異なるネットワーク推進医間で患者の紹介を行うといった、良い連携の事例もあり、当講座の最も重要な役割である、地域完結型の医療に大きく貢献できたものと考えています。

◆ ネットワーク推進医の具体的業務と成果

各地域医療拠点病院に派遣されたネットワーク推進医から報告のあった「地域医の拠点病院における専門医療の実践」にかかる具体的な業務と成果について、主な内容は次の通りです。

① 症例数・患者数について

- 外来診療と専門的な医療を提供し、他の診療科からの患者のコンサルトに対応し、適宜診療・治療介入を実施。この結果、事業開始前に比べ、患者数が増加。近隣のクリニックからの紹介患者と検診後の精査目的の受診の増加が主な要因と考えられる。
- 派遣先病院のかかりつけの患者や紹介患者を中心に診察。健康診断で異常を指摘されたり、近隣の開業医では難しい治療法の導入を目的とした患者の受診が増え、専門性が求められることが多くなってきた。このため、最近では、患者数が増加傾向にあり、紹介元の病院も近隣の開業医のみでなく、熊本市内ははじめ地域外の医療機関も増えている。
- 推進医の派遣によって、高度な医療水準、管理能力が必要な診療行為についても派遣先病院での対応が可能となり、熊本市内への移動が困難な高齢の患者等についても安心して診療・治療を受けることができ、外来患者数、手術件数が年々増加する傾向がみられる。
- 内視鏡検査等の指導を継続的に行うことにより、病院における症例が増加している。また、指導の継続により、派遣先の病院に勤務する常勤医師で検査・治療が完結する症例も増加する傾向にある。
- 派遣先病院における専門診療科医師の退職により、ネットワーク推進医が外来診療を引き継いだところ、治療(化学療法)の件数が増加。熊本市内の基幹病院で対応された症例の治療の継続を依頼される件数が増加しており、地元で治療を受けたいという患者の要望に応えることとなっている。
- 地域の開業医から派遣先病院への紹介患者数が年々増加する傾向にある。
- コロナ禍の中、患者数が全体的に減少しているといわれる中で、派遣された診療科の患者数は、コロナ禍前の令和元年度から横ばい状態を保っている。
- 派遣先の地方中核病院のベテランの診療科医師が令和元年度途中で退職することにより、手術経験の少ない医師を補助するために推進医を派遣。ベテラン医師退職後の令和2年度は手術症例数の減少がみられたが、3年度になり手術症例数が回復している。

② 派遣先病院における人材の育成と常勤医の負担軽減

- 若手の医師に対する院内コンサルトの症例を通して疾患に対する専門的知識や技術の指導を実施し、専門的検診や診療が派遣先の病院で実施可能となった。
- 入院患者、外来患者の他科コンサルトについて、常勤医のほか研修医からの診察依頼にも対応しており、研修医のスキル向上にも貢献している。
- ネットワーク推進医の派遣により、1人しかいない派遣先病院の当該診療科の常勤医の負担軽減が図られた。
- 救急外来診察と手術支援を行うことにより、派遣先病院の常勤医師の負担軽減と地域における手術の質の向上につなげることができた。

③ 地域の医療機関及び院内の診療科間における連携体制強化

- 本事業によるネットワーク推進医の派遣により、他診療科で診療に難渋している症例などのコンサルトがより円滑になり、医師同士のネットワークも広がり、病院内の専門医療の提供体制の充実がみられる状況にある。
- 常勤医のいない診療科において、専門的な診療の提供、院内コンサルトの対応とともに必要に応じて近隣の専門診療施設との連携を取って地域医療を実践。
- 推進医の派遣により手術が必要な症例の派遣先病院への紹介が進み、術後のリハビリテーション目的での転院調整の連携が進められことがうかがわれる。また、症例の重症度に応じて近隣病院との連携でトリアージ等にも重要な役割を担っている。
- 難易度の高い症例については、大学病院に迅速に紹介できる体制が構築されており、熊大病院で治療を行い、経過観察を派遣先の病院で行うという役割の分担もでき、医療連携体制が向上したといえる。
- また、重症患者は熊本市内の病院に搬送し、軽症から中等症の患者を派遣先病院で完結させるよう役割の分担が図られ、地域医療の充実につながっている。

④ 地域の拠点病院としての役割の充実

- 派遣医師が常勤医に代わり外来診療を行うことにより、常勤医が近隣の診療所等で診療や検診等を円滑に実施できる体制を構築している。
- ネットワーク推進医が、夜間の救急外来を担当し、地域の拠点病院の救急患者対応に貢献。
- 高齢化する地域において、推進医をはじめ非常勤医の派遣は、他地域への移動が困難な高齢者や障害のある方等にとって、地域の病院で診療を受けられるということは非常に有意義。当寄附講座による医師派遣が持続的な地域医療提供体制の保持に貢献しているといえる。

また、ネットワーク推進医からは以下のような指摘もなされています。

- 地域医療を支える地域医療機関の常勤医を支援することは、地域において持続可能な医療提供体制の構築を図るうえで必要。
- 近隣の医療機関や大学病院はじめ基幹病院との患者情報の共有、連携をさらに促進することが必要。
- 地域の拠点病院内の各診療科のさらなる連携による、より適切な医療サービス提供を進めることが必要。

地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座としては、このような報告を踏まえて、地域完結型の医療提供体制のさらなる充実に向けて、取組を進めていくこととしています。

◆ 地域住民への啓蒙活動の実践

ネットワーク推進医は、派遣された医療圏において、それぞれの専門領域についての啓蒙活動を行っています。令和3年度も、繰り返されるCOVID-19の感染拡大のために活動はかなり制限されましたが、可能な限り、院内研修会や地域の医師会などの講演会に参加し、専門医療の最新の知識の普及に努めました。

◆ くまもとメディカルネットワーク(KMN)の普及活動

地域医療連携ネットワークの構築のためには、ネットワーク推進医の派遣による人的ネットワークの形成と共に、Information and Communication Technology (ICT)を用いた情報ネットワークの形成が重要です。当講座では、各地域医療拠点病院と協力して、熊本県独自の医療情報連携ネットワークであるくまもとメディカルネットワーク(KMN)の普及に努めております。KMNによる新しい情報ネットワークの確立は、患者様への過剰な検査や処方減らし、医療機関の連携の中で安全・安心で質の高い医療の提供につながるものです。また、私たち医療従事者の業務効率の向上、ペーパーレス化・CD-R不要化によるコスト削減なども期待できます。さらに、ICTによる強固な情報ネットワークは災害にも強く、紙媒体などを介したCOVID-19などの感染対策にも有効と考えられます。

令和3年度は、前年度にネットワーク推進医により情報収集された各拠点病院のKMNの利用状況を踏まえて、特にKMNの文書送受信機能の利用数増加に注力しました。ネットワーク推進医は、派遣先病院の

地域連携室などと協力し、文書送受信機能を用いて、診療情報提供書や画像ファイルを紹介先へ送信する体制の整備に努めてきました。その結果、地域間での差はあるものの、普及の遅れていた病院においても、KMNの利用が少しずつ増えてきています。また、比較的普及が進んでいたいくつかの施設は、大学病院への診療情報等の提供の方法について、これまでの郵送・手渡しからKMNの文書送受信機能へほぼ一本化するに至ったところです。

◆ 地域医療の現状分析、解決策などの検討

令和3年度も、繰り返されるCOVID-19の感染拡大のため、ネットワーク推進医が一堂に会しての議論を交わすことはかなわなかったのですが、各ネットワーク推進医からの報告書を基にした書面会議による事業検討会を2回開催しました。

その中で、各圏域の地域医療の現状と問題点が報告され、その解決策について検討されました。例えば、地域住民の高齢化にともない、患者の高齢化も進んできていることが多く報告されました。高齢者は複数の疾患を合併しており、体力的な負担を考慮した慎重な検査・治療を必要とするので、単一の施設での対応は困難です。そのため、同じ医療圏の施設間での連携により、不足する専門医療を補完する体制の強化や、ICTを用いた遠隔医療を確立することが対策となると思われます。さらに、高齢者のケアには、看護・介護サービスの介入が必須であり、その地域格差の存在がうかがわれ、今後より詳しい調査が必要と思われます。

7 業績

1. 地域医療支援センター

◆ 論文、執筆

- 高柳 宏史（執筆）
プライマリ・ケアの理論と実践
監修 日本プライマリ・ケア連合学会 出版社 日本医事新報社
第 6 章—28. ICPC を用いたプライマリ・ケアにおける研究 ～家庭医療における受診理由の意味とは、p54-55

◆ 研究

- 後藤 理英子（共同研究者）
【女性医師の就労継続・キャリア形成推進のための実証的提言：フィンランドとの比較研究】研究種目：基盤研究 C， 研究分野：社会関連学， 研究期間：2019/4-2022/3
- 後藤 理英子【日本の男性医師と女性医師のアカデミックキャリアの構築にはどのような違いがあるか。】研究期間：2019/5/15 ～ 2024/3/31

◆ 学会発表

- 後藤 理英子ほか 佐賀（オンライン）
【医療界のダイバシティ実現を目指して ～ジェンダー・ダイバシティの苦労～】
第 12 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 2021/5/21-23
- 後藤 理英子ほか 栃木（オンライン）
【多様なライフスタイルに合わせた専門医教育・医師の働き方の再構築の必要性】
第 53 回日本医学教育学会大会 2021/7/30-31
- 高柳 宏史 座長・導入演者
第 12 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 福岡大会
シンポジウム「プライマリ・ケアにおける国際分類の活用法～新しく改訂された分類（ICD-11、ICPC－3）から読み解く将来の展望～」
タイトル 「シンポジウム導入」

◆ 講演会・講師

- 後藤 理英子【レジリエンス（折れない心）のつくりかた～人間関係に悩むあなたに～】
雲柱社合同研修会 2021/11/22
- 後藤 理英子【令和 3 年度九州大学病院医師臨床研修指導医講習会】2021/11/25-27
- 後藤 理英子【レジリエンス（折れない心）のつくりかた】2022/1/9 プライマリ・ケア認定薬剤師研修会 13：20 ～ 14：50
- 後藤 理英子【仕事に役立つ「コーチング」】2022/1/9 15:00 ～ 16:30 プライマリ・ケア認定薬剤師研修会
- 後藤 理英子 第 158 回全自病協・国診協 臨床研修指導医講習会 2022/1/15-16
- 後藤 理英子【熊本県における医師の男女共同参画活動について】2022/1/18 地域における女性医師支援懇談会～クローバーの会～
- 後藤 理英子【熊本県における医師の男女共同参画活動について】2022/1/24 令和 3 年度 医学生、研修医等をサポートするための会
- 後藤 理英子 2022/1/29-30 第 159 回全自病協・国診協 臨床研修指導医講習会
- 後藤 理英子【熊本大学病院における育児・介護のための取り組みについて】2022/2/4 令和 3 年度 育児・介護支援情報会

2. 地域医療・総合診療実践学寄附講座

◆ 論文、執筆

- 谷口純一、吉野俊平、高山耕治、西知世、桑野公輔、菅沼明彦、中田浩智、加島雅之、山本英崇、本田裕之、鋪野紀好、松本正孝、須眞司、『CPC ～何が起きていたのか？最終病理診断からのメッセージ～ AIDS 発症後、低体温、急性肝腎障害をきたした31歳の男性』、日本内科学会雑誌、第110巻 第9号、2048-2066,2021
- 小山耕太、宮川寿一、田宮貞宏(企画担当者：谷口純一)、『地域中核病院で、新型コロナ感染症拡大にどう対応するのか』、日本内科学会雑誌、第110巻 第6号,1204-1207,2021
- Saori Nonaka, Tetsuya Makiishi, Yoshito Nishimura, Kazuya Nagasaki, Kiyoshi Shikino, Masashi Izumiya, Mitsuru Moriya, Michito Sadohara, Yoichi Ohtake, Akira Kuriyama
Prevalence of Burnout among Internal Medicine and Primary Care Physicians before and During the COVID-19 Pandemic in Japan
Internal Medicine
DOI:10.2169/internalmedicine.8118-21
- Akira Kuriyama, Kiyoshi Shikino, Mitsuru Moriya, Michito Sadohara, Saori Nonaka, Kazuya Nagasaki, Yoshito Nishimura, Takahiro Matsuo, Kumiko Muramatsu, Tetsuya Makiishi
Burnout, depression, anxiety, and insomnia of internists and primary care physicians during the COVID-19 pandemic in Japan: A cross-sectional survey
Asian journal of psychiatry
2021;68;102956
- Joishy S.K, Sadohara M, Kurihara M, Tokuda Y
Complexity of Diagnosis of COVID-19 in the Context of Pandemicity: Need for Excellence in Diagnostic Acumen
Korean J Fam Med
2022;43(1):16-26
- Michito Sadohara
"Abbreviation Arrangement" Syndromes, i.e., Names and Natures Do Often Disagree
JMA Journal
2022;5(1):132-134

◆ 研究

- 谷口 純一(共同研究者)
『Entrastable Professional Activityを基盤とした段階的若手指導医養成プログラム開発研究』
研究種目：基盤研究B 研究分野：医学教育 期間：2017年度～2021年度
- 佐土原 道人【地域医療研修による研修医のレジリエンスの変化に関する質的研究】2018/8/20～2022/3/31
- 佐土原 道人【働き方改革のためのホスピタリスト・システムの導入に対し、米国で働く日本人のホスピタリストはどのような見方をしているか？】2018/9/20～2022/3/31
- 佐土原 道人【地域医療研修による研修医のレジリエンスの変化に関するアンケート調査】2019/6/21～2022/3/31
- 佐土原 道人【令和元年度夏季特別実習前後での参加学生の意識および知識の自己評価の変化に関する研究】2020/3/19～2022/3/31

◆ 学会発表

- 谷口純一、【CPC～何が起きていたのか？最終病理診断からのメッセージ～】、第118回日本内科学会総会・講演会、2021/4/9-4/11、オンライン配信、東京都(ハイブリッド開催)

- 谷口純一、【熊本県における総合診療医の養成と地域医療改善の取り組み】、第12回プライマリ・ケア連合学会学術大会、2021/5/22-5/23、オンライン配信、福岡県(オンライン開催)
- 谷口純一、【医療面接実習の代替の個別課題の試み】、第53回日本医学教育学会大会、2021/7/30-7/31、オンライン配信、栃木県(オンライン開催)
- 谷口純一、【シンポジウム リベラルアーツから地域医療へ】、第53回日本医学教育学会大会、2021/7/30-7/31、オンライン配信、栃木県(オンライン開催)
- 鋪野 紀好, 西村 義人, 泉谷 昌志, 野中 沙織, 大武 陽一, 松尾 貴公, 川嶋 乃里子, 森谷 満, 栗山 明, 山本典子, 佐土原 道人, 牧石 徹也, 長崎 一哉
ACP(米国内科学会)日本支部年次総会 2021/6/27 オンライン
【Wellbeing championになろう! パーンアウトからチームを守るために】
- 佐土原 道人 第42回臨床薬理学会 2021/12/11 仙台
【シンポジウム: 研究公正・研究倫理のセンスを身につけた臨床薬理研究者の育成
テーマ：臨床研究トレーニングに組み入れられた能動的研究倫理学習プログラムを経験して】

◆ 講演会・講師

- 谷口純一、熊本大学病院 看護師特定行為研修 「臨床推論：医療面接」等、講師、2021/5/27、6/4、6/10
- 谷口純一、熊本大学病院臨床研修指導医ワークショップ 「社会が求める医師の基本的臨床能力とは？」等、講師、2021/12/4、2022/1/8
- 谷口純一、熊本大学病院CLS、心肺蘇生法 導入 等、講師、2021/11/13
- 谷口純一、令和3年度医学・歯学教育指導者のためのワークショップ「地域枠学生」、モデレーター、2021/7/15
- 谷口純一、熊本保健科学大学 認定看護師教育課程カリキュラム 「臨床推論：医療面接」「臨床推論：医療面接(評価)」、講師、2021/8/27
- 谷口純一、令和3年度熊本県かかりつけ医うつ病対応力向上研修 「withコロナ時代の日常診療におけるメンタルな問題とケア」、講師、2021/12/25
- 谷口純一、国立大学法人九州大学医学部 「総合医学Ⅲ・系統医学Ⅲ」臨床推論、非常勤講師、2021/10/1～2022/3/31
- 谷口純一、令和3年度九州大学病院医師臨床研修指導医講習会 臨床研修プログラム立案作業「目標」、講師、2021/11/25-2021/11/27
- 谷口純一、全国自治体病院協議会 第157回臨床研修指導医講習会 「卒前医学教育の概要」、講師、2021/12/18-12/19
- 谷口純一、九州ルーテル学院大学 「医学一般／人体の構造と機能及び疾病」、非常勤講師、2021/9/24-2022/3/31
- 谷口純一、全国自治体病院協議会 第158回臨床研修指導医講習会 「卒前医学教育の概要」、講師、2022/1/15-1/16
- 谷口純一、全国自治体病院協議会 第161回臨床研修指導医講習会 「社会が求める医師の基本的臨床能力とは？」、講師、2022/2/19-2/20
- 谷口純一、令和3年度山口大学医学部附属病院卒後臨床研修指導医養成講習会 臨床研修プログラム立案作業「目標」、講師、2021/10/28-10/30
- 谷口純一、熊本総合診療研究会主催 専攻医学習会 「模擬診療形式シミュレーション学修」、講師、2021/7/4
- 谷口純一、第4回Whole Person Care研究会 「マインドフルネス」、講師、2021/8/7
- 佐土原 道人【2021年度 第1回看護師特定行為研修指導者講習会(オンライン)】2021/7/4 講習会のタスクフォース
- 佐土原 道人【2021年度 第5回看護師特定行為研修指導者講習会(オンライン)】2021/11/3 講習会のタスクフォース

- 佐土原 道人【熊本大学病院看護師特定行為研修】2021/5/26、6/9、6/16 演習の講師
頭痛、胸痛、腹痛；吐血、呼吸困難、発熱；呼吸器症状の画像診断、臨床疫学
- 佐土原 道人【熊本保健科学大学認定看護師教育課程 フィジカルアセスメント基礎】2021/8/25 演習・実習の非常勤講師 フィジカルアセスメント基礎
- 佐土原 道人【佐久大学大学院看護学研究科 プライマリケア看護学演習Ⅰ】2021/1/11
非常勤講師 プライマリケア看護学演習Ⅰ
- 佐土原 道人【第26回徳洲会グループ臨床研修指導医養成講習会(大阪)】2021/12/4-5
講習会のタスクフォース
- 佐土原 道人【第159回全自病協・国診協臨床研修指導医講習会(オンライン)】2022/1/29-30 講習会のタスクフォース

その他(委員会等)

- 谷口純一，一般社団法人 日本内科学会 専門医部会委員(九州支部支部会長)，委員，2021/7/20、11/19
- 谷口純一，日本専門医機構 総合診療部門 生涯学習部会，部会長
- 谷口純一，日本専門医機構 総合診療部門 総務部会，委員
- 谷口純一，日本専門医機構 総合診療部門 専門医試験部会，筆記試験問題作成、面接試験官，委員
- 谷口純一，公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構 プレCC OSCE外部評価者認定専門部会，部会長
- 谷口純一，公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構 プレCC OSCE課題改訂部会，委員
- 谷口純一，公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構 ポストCC OSCE課題改訂部会，委員
- 谷口純一，公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構 総合評価解析小委員会，委員
- 谷口純一，公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構 動画作成委員会，委員
- 谷口純一，公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構 e-learningプロジェクトチーム，チーム委員
- 谷口純一，公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構 実施管理委員会，委員
- 谷口純一，公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構 実習事業小委員会，委員
- 谷口純一，公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構 OSCE機構派遣監督，監督者
- 谷口純一，日本プライマリ・ケア連合学会，代議員
- 谷口純一，日本医学教育学会，代議員
- 谷口純一，日本医学教育学会 地域医療教育部会，部会委員
- 谷口純一，熊本総合診療研究会，世話人代表
- 谷口純一，九州大学医学部プログラム評価委員会，委員
- 谷口純一，全国医学部長病院長会議 カリキュラム委員会，委員
- 谷口純一，九州在宅医療推進フォーラム実行委員会，委員

3. 教育拠点(くまもと県北／天草)

◆ 学会発表

- 小山 耕太 松岡 準平 田宮 貞宏 松井 邦彦
第 336 回日本内科学会九州地方会 2022/1/29 福岡市 (Web 開催) 【訪問診療で経過観察中、低栄養を契機に直腸癌と診断した 1 例】
- 小山 耕太 田添 英典
日本プライマリ・ケア連合学会 第 16 回九州支部会・学術大会 2022/2/12 鹿児島市 (Web 開催) 【頭痛を主訴に来院した 15 歳女児の一例】
- 小山 耕太 嶋永 翔太
日本プライマリ・ケア連合学会 第 16 回九州支部会・学術大会 2022/2/12 鹿児島市 (Web 開催) 【原因として非痙攣性てんかん重積状態 (NCSE) が考えられた急性意識障害の 1 例】

- 松本朋樹 飯塚 - 穎田キャリアセミナー 2021/8/21 【地域で開業するというキャリア】
- 松本朋樹 本田優希，工藤仁隆，合田建 2022/2/5-6 【若手のための家庭医療冬期セミナー】

4. 総合診療科医局員・専攻医(総合診療専門研修プログラム)

■学会発表

- 武末真希子 第 333 回日本内科学会九州地方会 2021/6/5 【結核性腸腰筋膿瘍、化膿性脊椎炎に対し、抗結核薬、穿刺ドレナージにより治癒した一例】
- 松田圭史 1, 片岡恵一郎 1, 寺倉宏嗣 1 (1. 小国公立病院) 第 25 回熊本県国保地域医療学会 阿蘇、Web 開催 【小国郷における在宅医療提供体制の構築】

■講演等

- 空田健一 福祉講座「在宅医療と訪問介護について」2021/10/28 講師 【在宅医療】
- 平賀 円
○講演：令和 3 年度医学生、研修医等をサポートするための会
日時：令和 4 年 1 月 2 4 日 (月) 午後 6 時 30 分～
場所：熊本県医師会館
タイトル：「総合診療科専門医取得に向けて」

8 おわりに

1. 教員から

■ 谷口 純一 特任教授

2020年4月から私が「地域医療・総合診療実践学寄附講座」の特任教授を拝命し、大学に設置された「地域医療支援センター」の副センター長と併せ、2021年度も引き続き、同センター業務と、それ以外の従来取り組んできた内外の業務とを、バランスを取りながら、整合性をつけつつ、業務遂行を行なおうとしました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響も大きく、地域医療機関との情報共有等も、今年度も、ほとんど出来ず、業務の方向性もコミュニケーションの困難さに直面いたしました。

具体的には、寄附講座、地域医療支援センターにおける、私個人の活動として、以下を目標として取り組みましたが、簡単に振り返ってみました。

- 1) 県内地域医療機関関係者への訪問、面談と分析・対応検討
→ 極一部の関係者との接触に止まった。
- 2) 総合診療専門医の養成に関しての企画・立案
→ 試験受験の為に専攻医のサポート等に、極一部関わったのみ。
- 3) 地域医療関連の卒前教育の実施
→ 予定された、授業、実習はおおよそ実施できた(新型コロナウイルス感染症の為、一部限定的となったが)。
- 4) 修学資金貸与制度の制度運営の実施と整備
→ ほぼ、制度利用者への面談を一部行ったのみ。
- 5) 地域医療機関への診療・教育支援
→ 依頼の有った少数の機関で、現場での診療・教育支援は行った。
- 6) その他、機構関連諸業務(運営会議、連絡調整会議、理事会、等)
→ 会議等に参加したが、ほとんど実質的な関わりは出来なかった。

また、寄附講座、地域医療支援センター業務以外の、個人的な大学内外業務は、以下を組み組みましたが、こちらも、簡単に振り返ってみます。

- 1) 大学病院総合診療科外来診療、及び、救急外来診療
→ 設定された診療業務は滞り無く実施できた。
- 2) 医学部医学科の卒前教育で、地域医療以外の授業・実習
→ 依頼された授業・実習は、ほぼ滞り無く実施できた。
- 3) 大学卒前医学教育の横断的な業務補佐
→ 臨床医学教育研究センターを中心としてある程度支援できた。
- 4) 卒後初期研修・専門医研修(総合診療)の指導・プログラム管理補佐
→ 一部の現場指導のみは実施できた。
- 5) 学内外の様々な依頼業務(共用試験実施評価機構各種委員、全国医学部病院長会議カリキュラム委員、臨床研修指導医養成ワークショップ、看護特定行為研修関連、心肺蘇生法講習会、等)
→ 依頼業務が増え、こちらの業務のエフォートが増えたが、可能な限り協力した。
- 6) 学会等の各種委員会活動(熊本総合診療研究会の運営、内科学会内科専門医部会、日本専門医機構総合診療専門医関連部会、等)
→ こちらも、新たな委員会活動の依頼が増えたが、可能な限り協力した。

以上、振り返ってみました。「地域医療・総合診療実践」という名称の責任者として、その実践の困難さに直面させられ、一部の医療機関等には、大変ご迷惑・ご心配をおかけした事も多々あったかと、大変遺憾に思うと共に、お詫び申し上げます。今までの経験を踏まえ、今年度一杯で、立場を変え、地域医療の現場で、地域医療・総合診療の地道な実践を試みたいと思っています。今までのご支援・ご理解に対し、この場をお借りして、改めて感謝申し上げますし、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

■ 佐土原 道人 特任助教

早いもので地域医療・総合診療実践学寄附講座に赴任してまる5年が経ちました。昨年度の最大のトピックスは、2018年に日本専門医機構の基本領域の専門領域として開始された熊本大学総合診療専門研修プログラムの4名の選考医が専門医に合格したことです。制度の先駆者として、今後のますますの活躍が期待されます。また、昨年度は3月より総合診療科がスタートし、大学病院の診療部門に加わる事ができたのも進歩です。社会人大学院生2名も研究をスタートしております。私は、医局長を拝命し、これまでの県の委託事業とそのミッションを具現化する寄附講座の仕事に、診療科の運営業務が加わりました。診療支援先は、昨年に引き続き公立多良木病院にお世話になりました。

やはり、コロナ禍で出張は激減、臨床研修指導医講習会や看護師特定行為指導者養成講習会、看護大学院の実習授業もオンラインやその併用と感染対策を厳重な上の実施と、不便が続いています。昨年度も学会発表は低調でしたが、共同研究を行なった英語論文が2篇アクセプトされました。研究を通じてネットワークが作れるようになった気がします。昨年度は、科研費の最終年度でしたが、一部の残った成果をきちんとアウトプットし、次の競争資金獲得に向け頑張りたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

■ 後藤 理英子 特任助教

日頃より熊本県女性医師キャリア支援センターへのご理解とご支援を賜り、誠に感謝申し上げます。令和3年度も引き続きコロナに振り回された年でしたが、昨年に比べてWeb開催などにも慣れ、少しずつ活動を進めることができました。

今年度CLOVER第4版を完成することができ、感無量です。県内病院に勤務する女性医師数は第1版当時に比べて飛躍的に増加しており、短時間勤務や当直免除、院内保育や病児保育の設置にご協力くださった各病院様、先生方に改めて深く感謝いたします。

課題点としては、熊本県では専門医取得率について未だ男女差があることが挙げられます。今後はこの解消に取り組み、高齢化社会を迎え、質・量ともに高まる医療の社会的ニーズに、医師の働き方改革を適えつつ答えなければならないのではないかと考えております。

長年指導してくださった谷口純一先生、活動を支えてくださった横手友紀子さんのご退職…寂しい気持ちでいっぱいです。私自身どこまでこの役目を務められるのか甚だ自信を失っているところでございます。

日本の医師の男女共同参画はまだまだ発展途上です。この活動が引き継がれていくことを心から願っています。また、今後も皆様のご指導・ご鞭撻、お力添えをお願いできれば幸いです。

■ 高柳 宏史 特任助教

コロナ禍が続いています。まだまだ収まることはないと予想しています。残念ながら過大な期待をかけていたと振り返ったのはCOVID-19の内服薬モヌルピラビルです。

実際、処方対象を確認してみると重症化リスクがある人に限られ、さほど広く一般的に用いることはできない。現在(2022.2月時点)、流行している年齢層がワクチン接種率の低い若年層が中心であり、それらの流行を抑え、かつその世代で重症化をおさえるような使用方法を内服薬は担えませんでした。なので、まだまだ感染者数のコントロールという点については、防疫や人や物の流れの制限や個々人の感染防御に頼るしかありません。いかに重症化率が既存の株よりも低いといっても感染者数が多ければ、結局は医療や社会機能に影響してしまうので、医療崩壊につながってしまいます。そう考えると、今後中長期的に医療現場や社会的損失に見合う額を補償にあてて1週間だけでもしっかりと社会機能の停止(ロックダウン)に回したほうが、意外と早期に感染も落ち着くのではないかと考えてしまいます。終わりの見えないコロナ禍をいかに乗り切るのか。不安を感じますが、できることを一つ一つやるしかありません。

研究のテーマとして2021年度からは3つ目のテーマを持つようになりました。「受診理由の臨床における意義」、「災害とプライマリ・ケア」、そして、3つ目として「Positive deviance」です。研究として興味はありますが、Academic writing、とくにそのための時間をどのように設けるかが目下の課題です。

■ 北村 泰斗 特任助教

本当にあっという間の一年間でした。

これまでの初期・後期研修での生活とは、まるでテイストの異なる生活で、右も左もわからず、なにかしら役に立っている実感もなく、目の前のことをこなすことでいっぱいいっぱい、毎日自問する日々でしたが、1年を経て、皆様の絶え間ない温かいご指導を頂いた結果、ようやく自分に求められているものをおぼろに理解できるようになって参りました。

研修医の立場、管理者の立場の両面に現時点で触れたことは、自分にとっては大変意義のある1年でありました。このような機会を頂けたことに厚く感謝申し上げます。少しずつでしたが現在の役割にも馴染みを与えるようになって参りましたので、これからstep upを図っていききたいと思う所存です。

■ 松本 明樹 特任助教(天草教育拠点指導医／天草地域医療センター 総合診療科)

天草で総合診療医として働いた2年間は、大きな学びとなりました。

着実に他科、多職種からの信頼を得ることができ、地域からの大きなニーズを感じる日々でした。「総合診療科が出来てから、どこに相談すればいいかわからなかった患者さんたちを相談できて助かります」と何度言われたか分かりません。

今までは比較的規模の大きい病院で勤務してきた私でしたが、中小規模の病院でも総合診療科として地域に貢献できる可能性を感じました。

研修医にとっても総合診療科は人気のローテーション科の一つであり、絶えず1-2人の初期研修医や学生がローテーションしてくれました。当科としても教育に対して、「毎日の3つの学び」、「中期・長期マイルストーンの設定」、「振り返りのための個人面談」など初期研修医教育に新しい取り組みを行い、それらが好評だったようです。

臨床・教育・マネジメントの3つの柱で組織作りの手応えを得ることが出来た2年間でした。今後は研究の柱も加わることで、組織として更に飛躍できると確信しています。

天草・玉名・大学と拠点の連携による相乗効果はとても大きくなるでしょう。

今後教育拠点が河浦病院へ移りますが、引き続き天草での総合診療医の育成が進むことを願います。

■ 中村 孝典 特任助教(天草教育拠点指導医／天草地域医療センター 総合診療科)

2021年度は熊本大学病院地域医療・総合診療実践学寄附講座の特任助教として天草地域医療センターにある教育拠点到任しました。そこでは総合診療科所属の医師としての臨床だけでなく教育拠点の助教としての卒前、卒後教育を行いました。

前年度とは勤務先や立場が変わりやや不安もありました。また個人的なこととしては、家族4人で熊本市から天草市に引っ越すことになりましたが、1月に生まれた子供の熊本市内の病院受診や入院もあり、家族への負担も大きかったと思います。

ただ大学病院、医療センターのスタッフ、そして同僚の協力もあり比較的ストレスなく1年間を過ごすことができました。

また教育拠点の職員として診療と並行して、医学生や初期研修医への教育業務を行わなければなりません。私が所属していた総合診療科は常勤医が2名しかなく、通常外来、救急対応、病棟管理を行っていく中ではなかなか教育業務に時間を割くことが難しい時もありました。しかしながら医学生、初期研修医の方々のモチベーションが高く、逆にこちら側が尻を叩かれているような状況となり私自身の勉強にもなりました。

この1年間は前年度と同様に、周りに支えられていることを強く実感できた年となりました。そしてこの経験をいつかどこかで周りに還元していくことが私の課題だと思います。

■ 鶴田 真三 特任助教(河浦教育拠点指導医／天草市立河浦病院 総合診療科)

2021年4月に河浦拠点が立ち上がり、そこに赴任して新たな一年がスタートしました。診療圏は主に旧河浦町・天草町の地域です。過疎で高齢化率は高く、広い土地に集落が点在しており、かといって医療機関は少なく、まだまだこの地域だからこその医療を考えていく必要がある場所です。その中で、こ

の地域で培われてきたものがあり、地域ならではのシステムやアイデア、連携などもあり、アクティブさがあります。プライマリ・ケア、地域づくりを行っていく上で、とても楽しい場所です。

COVID-19感染の流行のため、なかなか地域活動が行いにくい日々が続きますが、リモート会議なども活用し、できる範囲では活動を開始しています。今後、地域の様々な職種の方や住民と協議しながら、よりよい地域づくりを行っていきたいです。

当初想定していたより人手不足で忙しいですが、楽しく過ごせました。後半はレジデントが赴任してくれたので、このフィールドだからこその指導ができるようになりました。今のレジデントにはゆっくりと一人前になってもらいたいです。そして、いずれは若手医師や学生から「1年でも河浦に行けば楽しく成長できる。」と言われるような教育拠点にしていきたいです。優秀なレジデントもそうでないレジデントも研修を希望してもらえるような施設になるよう、今後も普段の診療、教育を楽しく続けていこうと思います。

ちなみに、河浦病院に赴任してイカ釣りにハマりました。仕事や育児だけではなく、イカ釣りも精進したいです。

■ 久保崎 順子 特任助教(玉名教育拠点指導医／くまもと県北病院 総合診療科)

2021年度は、くまもと県北病院の総合診療科で勤務しました。地域の先生方からたくさん紹介もあり、幅広い疾患を診ることができました。最も印象的であったのは、ALSの患者様を当院で看取ったことです。ALSは在宅医療を導入することも多く、家庭医や総合診療医が診る機会も多くあります。私はこの一年で2名のALS患者さんを担当しました。うちお一人は、気管切開をしない方針であり、NPPVを付けていましたが、それでも呼吸苦の訴えが持続するため、モルヒネを使用していました。意思表示が難しいため、できる限り時間をとって、可能な手段でコミュニケーションを図ることに努めました。モルヒネの増量も探り探りであり、最後の方は「早く逝きたい」と訴えていました。亡くなった後に、家族からは、感謝しかされませんでした。わたしとしては「もっと早く楽にさせてあげられなかったのか」という反省が残りました。状態がまだ軽い時に、訪問診療していた方でもありましたので、先日、患者さんのご自宅にお線香を上げに伺いました。奥様から、元気だった頃のお話や、葬儀の時のお話などを聞くことができて、いい時間になりました。

医師になってから6年が経過していますが、マニュアル通りじゃないことばかりで、後悔や反省がつきものです。どうしても患者を「さばく」感覚になってしまいがちですが、回ってくる学生さんや研修医の方々の、患者さんに対するみずみずしい優しさに触れると、初心に帰る気持ちになります。患者さんたちは医療者の優しい言葉にどれだけ救われるか、逆に、心ない一言にどれだけ傷つくか、おそらく患者の立場にならなければ分からないと思います。医師である前に人間であるということを、これからも忘れずに行きたいと思います。

さて、2022年4月からは、国立医療センターの総合診療科に異動します。今後も後輩がたくさん増えるように、新しい場所でもお役に立てる存在でありたいと思います。

■ 田宮 貞宏 非常勤講師(くまもと県北病院 院長／総合診療科)

令和3年度の私のトピックといえば新病院開院と終わりの見えないコロナ禍ということになると思います。

令和3年3月の病院の合併、移転に伴い、玉名教育拠点もくまもと県北教育拠点と名称が変わり、新しい病院でスタッフは日々、奮闘していただいています。

誰も経験のない病院の引っ越しでは小山先生が陣頭指揮をとり、大きな問題は発生せず完遂し、新病院の開業に多大な貢献をしていただきました。

日々、状況が変化し続けている新型コロナウイルス感染症の流行に関しては、郡市医師会との協力体制が状況に合わせてアップデートされ柔軟な対応がなされていると感じています。総合診療科の皆さんが日頃から地域連携室をはじめとした院内スタッフ、医師会の皆様に良好で実践的な関係性を保ち、活動しているおかげだと思っています。

私としましては2021年10月、思いがけなく院長を拝命することとなりましたが、変わりなく若い医療人の学びの場として病院が機能するように働きかけ、玉名を善き医療人が育つ地域にしたいと思っています。また、地域の枠を超え、行政、医療機関、福祉施設に総合診療科の価値に関する情報を発信し

ていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

■ 小山 耕太 非常勤講師(くまもと県北病院 総合診療科部長／総合診療科)

「次のステップ」

熊本大学に帰還して9年目、教育拠点に赴任して8年目に突入しました。熊本地震を経験したり、コロナ禍に突入したりと、想定を大きく外れた事態に陥りながらも耐え、発展する速度は落としてつつも確実に前進していると思うこの頃です。くまもと県北病院も、教育病院としての医学生・研修医からの支持を目に見える形で受けられるようになってきました。中でも、田宮先生の院長就任は、教育拠点を支える全ての方々の喜ぶところとなりました。

この喜びをバネに、次のステップとして、教育拠点で研鑽を積んだ人材が、研究分野にもコミットし、業績を上げるべきフェーズに入ったと思うこの頃です。当然ながら、現在大学院生として研鑽を積み、北村先生や武末先生への期待は大変大きいものですし、松井先生を中心に、大学院生を指導する我々教員・指導医の責任も同じ様に大きいものと、身が引き締まる思いです。そんな中、私個人としても(かなり遠回りしましたが)更に研究指導の為に研鑽を積みべきフェーズに突入したと考えております。

今年度は、組織としての飛躍の為に、個人としての次のステップを意識した活動を行っていききたいと思っておりますので、引き続き、皆様のご指導とご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いいたします。

ゆっくりだけど、確実に前進

■ 古賀 義規 客員研究員(御所浦診療所 所長)

御所浦診療所は熊本県内で離島医療を経験できる数少ない診療所の1つで、総合診療科医師2名による常勤体制となっています。

今年度もCOVID-19感染症流行のため、移動を伴う医学生実習や、多くのイベントが影響を受けました。何とか1人の感染者も出さずに踏みとどまっていたのですが、ついに今年1月には御所浦にも比較的大きな流行の波が押し寄せました。保健所や島外の入院施設の支援もあり、最終的には島民1人ひとりの行動変容で何とかこの波を乗り切ることができました。

一方で、コロナ禍で、オンライン会議などリモートでできることが一気に増えたことは不幸中の幸いだったと思いますが、同時に対面の重要性もまた浮き彫りになりました。地域の連携は重要なテーマだったのですが、コロナ禍で停滞してしまったことは否めません。来年度は対面とオンラインの両面戦術でコロナ以前よりも力強く地域連携を図れるようになるものと考えています。

ところで令和4年1月からは新たな医科と歯科の複合診療所での診療が開始となっています。研修医や医学生のための宿泊施設も併設されております。蔓延防止重点措置の期間中でありましたが、地域住民の皆様のご理解もあり、3月には最初の医学生を受け入れることができました。

今後はより多くの医学生や研修医に離島・へき地での地域医療に理解を深めてもらい、地域医療・家庭医療にやりがいをもって取り組める人材育成の一助になりたいと思います。

■ 片岡 恵一郎 客員研究員(小国公立病院 病院事業管理者)

2018年度より、松井先生と谷口先生のご厚意により客員研究員として、小国公立病院に勤務しながら、地域医療支援センターに出入りさせていただいており、2021年度が4年目となりました。

今年度より、小国公立病院の事業管理者となり、これまで以上に病院の管理・運営業務が増え、地域の病院の未来を担うという事の責任の重さを実感しているところです。

新型コロナウイルスの感染波が何度も押し寄せ、熊大の地域医療支援センターに足を運ぶ回数が例年よりも少なくなりましたが、今年度の私の報告のメインは何と言いましても、熊本県地域医療支援機構広報誌「COCODE! vol.2」にて、小国を特集して頂いたことです。事務局の方、業者さん、ライターさん、カメラマンさん等々の多くの方々に小国まで何度も来て頂き、念入りに取材をしていただいたおかげで、これ以上はないというぐらいの素晴らしい内容の特集を作り上げていただきました。

この冊子、小国の住民のみなさんの評判も大変好評で、今後数年はこの冊子を使ってあちこちで病院紹介ができそうです。また、この「COCODE!」をみて、ひとりでも多くの若い医師に、総合診療・地域医療に興味を持っていただけることを期待しております。個人的にはカメラマンさんの腕が良すぎて、写

真と現物のギャップをいろんな人に何度も指摘されるのが痛いです。さすがプロ。

熊本大学からの地域医療支援は、地方にとって本当に貴重なもので、今年度も高柳先生、松田先生、研修医の先生、優秀な学生さん等々多大なるマンパワーを小国の医療現場に送っていただきました。2022年度も、引き続きの厚いご支援に対してご恩返しができる様、客員研究員としてできる事を微力ながら務めさせていただきたいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

■ 武末 真希子 医師(総合診療科医局員)

今年度は診療所で勤務させて頂き、家庭医として、より地域に密接した診療や、プライマリケアのセッティングでの診療経験を積むことができました。医学的な知識だけではなく、連携の技術や長期的に信頼関係を築くためのコミュニケーション能力など、多角的な能力を養うことができました。自身の未熟さを痛感する日々ですが、地域に貢献できる医師になれるよう精進しています。

また、社会人大学院という形で研究にも携わり、日々苦戦しています。思うように進まない毎日ですが、研究について学んでいくことは論理的な思考能力の養成に役立ち、日々の診療でも困難に直面した際の物事の捉え方や対処の仕方にも役立つことだと実感しています。来年度は成果を出せるよう、更に研鑽を積んでいきます。

■ 松田 圭史 医師(総合診療科医局員)

今年度はついに家庭医療専門医試験を受験し、無事合格することができました。今回受験したことで、改めて家庭医療専門医・総合診療専門医に求められる能力を再確認することができ、まだまだ至らない点も多くあることを実感することができました。今後は今回の反省を活かして、より優れた家庭医療・総合診療医になるべく研鑽を積んでいきたいと思っております。また、今年度は小国公立病院での勤務が3年目となる年でしたが、通常診療に加え、新型コロナウイルス感染症に関連する業務(発熱外来、ワクチン接種)や訪問診療の組織的なシステム構築、学生・研修医の教育・指導等を中心的にマネジメントする機会も多くありました。その中でより広い視点(病院全体、町全体等)を得ることができ、組織・チームをどう動かすか、といったことも学ぶことができました。教育については、今後は総合診療指導医の資格を取得し、後進を育てながら一緒に総合診療を盛り上げていければと思います。次年度からも診療、研究、教育、組織運営等、幅広い視点と興味を持ちながら、家庭医療・総合診療専門医として、日々精進していききたいと思っております。

■ 空田 健一 医師(総合診療科医局員)

今年度も御所浦勤務となり、イカの釣り場まで徒歩2分という恵まれた環境を最大限活用する方針としました。まずは、道具を見直すこととし、山鹿釣具の竿と評判のよい糸を購入しました。釣り方は、YouTubeで学びました。不在時や悪天候を除き、朝夕通いました。釣果は、とても素晴らしいものでした。その日に食べるイカを釣り、酒を飲む生活になりました。食べたイカが100を超えたころ、太刀魚の時期になりました。ヒラメやキジハタなどが釣れることもあり、2日に1回くらい釣った魚を食べていました。野菜は、合わない気がして、あまり食べませんでした。肉は高価なので、あまり買いませんでした。玉子は、島で買ったものを生で食べるといまいちだった気がして、その後は購買意欲がわきませんでした。バランスのよい食事は、なかなか困難でした。住民の皆さまを診療所で検査すると微量元素やビタミンの不足をびっくりするほど認めました。いったん薬剤で補充することが多く、再発防止に玉子や肉の摂取を強くおすすめしましたが、複雑な気持ちでした。島民の課題のひとつは栄養と思われ、うまく介入できないか考える中、小学校で校長先生、担任の先生、保健師らと相談できる機会がありました。小学校では、健康で健全な食生活に関する知識や技能を身に付けるため、朝食を食べること、おやつを食べすぎないこと等に取り組んでおられました。しかしながら、親の考え方によるため、改善は困難のようでした。私からは、一人暮らしの男性は自炊できないことが多く、子供のうちに技能を身につけて欲しいことを伝えておきました。

今年度は釣りをすることによって気持ちが安定する等の効果があり、よい診療ができるようになってきました。今後も皆さまに信頼される医師を目指し努力していきます。引き続きご指導いただきたく、よろしくお願いいたします。

■ 平賀 円 医師（総合診療科医局員）

球磨郡公立多良木病院での勤務は2年目でした。外来、病棟、週一回の診療所、研修日として近隣病院での二次救急など、様々なシチュエーションでバランスのとれた仕事ができたと考えます。多良木病院はかかりつけ医の要素が大きいため患者数が多く、診察と同時に外来のタイムマネジメント感覚も身につけることができました。ポートフォリオのテーマでもあった『患者中心のケア』という概念を学んだおかげで、普段の何気ない診療もより一層深く介入できたような気がします。

昨年度末で専攻医プログラムが終了し、今年度は専門医試験を受験しました。試験前の提出書類などは揃えるのに苦労はありましたが、なんとか受験までたどりつき、無事受験者4名皆合格することができました。長い道のりでしたがひとまずほっとしています。今回の経験を来年度の専攻医に伝えられたらいいと思います。

また、その他にもいくつかチャレンジできたこともありました。ひとつは、The New England Journal of Medicineの画像症例に投稿したことです。1年前に内科九州地方会で発表した内容でしたが、時間はかかったものの一応は投稿までできました。即座にrejectを味わいましたが、良い経験になりました。ご指導いただいた佐土原先生、ありがとうございました。

1月には熊本県医師の講演会で講演する機会をいただきました。専門医取得に関して話をさせていただきましたが、今後は自分一人のキャリアだけでなく、熊本全体の総合診療地域医療を視野に入れて医療を進めていかなければいけないと実感しました。まずは学生・研修医らに総合診療の魅力を知ってもらうのが先決なので、そういった活動も力を入れたいです。

地域枠制度の人間として地域/僻地での勤務を行いながら専門医取得までできました。義務年限も後半戦となり、後期研修なども考えていかなければなりません。令和4年度は阿蘇医療センターでの勤務となり、心機一転頑張っていこうと思います。「診療＋α」を目標にいろいろなことにチャレンジしたいと考えています。

2. 事務から

松岡 大智

地域医療支援
コーディネーター

地域医療支援機構では、昨年度から広報誌「COCODE！」を発行し、3号まで無事出来上がりました。20ページくらいの小冊子ですが、地域医療に正面から取り組んでおられるドクターや地域医療を目指す医学生そして病院を利用する地域の方々に焦点を当て、きれいな色合いの写真と読みやすい文章で地域医療の魅力を人々に伝えています。

この一冊を作るために、多くの時間と労力がかかっています。事前の取材で地域を知り、人を知り、スタッフがそれぞれの専門の知恵と技術を結集し、最高のものを目指して制作しています。ページに輝く笑顔の裏には制作に携わる人々の汗と熱意が詰まっているのです。

地域医療も、医師はじめ医療スタッフや介護スタッフはチームとして様々な患者さんの治療や健康保持に取り組んでいます。スタッフは、患者さんの病気の他に家族や生活環境のことも知って、チームで議論しながらその人に相応しい治療法を探します。COCODE！を読んで、患者さんの笑顔がたくさんの人々によって支えられていることを改めて気づかされました。皆さんも是非COCODE！を読んで、地域医療の今を感じてみてはいかがでしょうか。

令和2年度以上に令和3年度は、コロナ感染症一色の年であり、まん延防止等重点措置期間がなんと140日以上と、人の行動があらゆる面で制限されました。

私どもの事業を展開していく中でも、その影響を大きく受けた1年間であったと思います。

そんな中、機会があり県内の知事指定病院34の病院を直接訪問することができ、公私にわたり、考えさせられることがありました。

前者では、人口減少さらには過疎化が進むにしろ、そこに住む人々の健康で安心して生活を営むためにも、病院というものはなくてはならないという思い。

後者では、人口減少さらには過疎化が進む中、病院だけが聖域かといえば、決してそうとも言いきれないのではとの思い。

病気を罹ったとき近くの病院を気軽に受診することができ、また自分の意に添わなかったら、他の病院を選択し受診することができる、熊本市の医療環境下にいる私。なんと恵まれていることやら！

熊本県では、医師が不足する地域の病院等に医師として勤務しようとする医学部生に対し修学資金を貸与し、県内の地域医療を担う医師を養成するということで、「熊本県医師修学資金貸与制度」が平成21年度に創設され今日にいたっており、私ども熊本県地域医療支援機構は、本貸与制度による、医学部生、医師に対しきめ細やか支援を継続して取り組んでいかなければならないと考えております。

令和3年度も新型コロナの影響を受ける1年でした。女性医師からの相談や医療機関からの問い合わせもコロナ前に比べると格段に減少し、医療機関の訪問もできませんでした。しかし、昨年度から開催している地域で働く女性医師のオンライン交流会では、地域毎にオンラインで開催し女性医師のお悩みや勤務状況を知ることができました。交流会の案内をする際、先生方は忙しいので参加してもらえるだろうか？とためらう部分もありましたが、ご案内の連絡をすると楽しみにされている先生方が多く開催して良かったなと思います。出産・子育てしながらキャリアアップの為に頑張っていらっしゃる先生方のお話を伺うと、とても感心させられます。私もあと一年、頑張っていらっしゃる女性医師の方々が不安なく勤務を続けていけるように専任医師の後藤先生、県庁医療政策課の女性医師支援担当と協力し合って活動していきたいと思っています。

高塚 貴子

女性医師復職支援
コーディネーター

山並 美緒

地域医療・総合診療とは何かも分からず入職して、とにかく必死に頑張った6年間でした。

熊本県の地域医療を支える先生方、総合診療医を目指す先生方、県医師就学資金を貸与されている学生の皆様のサポートをすることで、私も微力ながら熊本県民の皆さんの医療を支える一端になれていると感じ、とても誇りに思っていてまいりました。このような誇りある仕事をさせていただき大変感謝しております。

日本の医療の現実も垣間見ることができ、一患者としてどのように医療を受けるべきか、受けないでいいように生活すべきか考えさせられ、生活習慣も改善しました。職場環境にも恵まれ、家庭と両立する事もできました。

与えられるばかりで何も恩返しできておりませんが、今後も何かしらの形で熊本の総合診療を支えるお手伝いができればと思っています。

日本では医療機関へのアクセスがしやすい反面、どの診療科を受診すればよいか判断がつけづらくなっていると言います。私自身、いくつかの診療科を受診してやっと診断がついた経験があります。今後、そんな日本の医療のカギとなるのが「総合診療医」だと思います。

新専門医制度も始まったばかりの今は過渡期で大変かもしれませんが、少しでも総合診療の必要性と、病ではなく「人」を診る診療の醍醐味に気づき理解してくれる学生さん・研修医の先生が現れ、熊本県の総合診療が発展することを祈念いたします。

6年間どうもありがとうございました。

山口 香

今年度は昨年に引き続き、Zoom(オンライン)が大活躍した1年でした。特別臨床実習(クリクラ)などの学外実習は、先生方の熱い思いと施設のご協力により、ほぼ対面実習が可能な1年となりましたが、地域医療ゼミはなかなか対面で集まることが難しく、総合診療セミナーも全ての回がオンライン開催となりました。ただ、オンライン開催ならではの利点は今年度も発揮され、遠方の講師をお招きしたり、全国からセミナー参加のお申し込みを頂いたり、対面では実現しえなかった喜びも多くありました。

今後、Withコロナの時代になっても、Zoomとは縁がきれることはなさそうです。昨年よりは慣れ親しんだ感がありますが、まだまだ私にとっては奥深く、すぐに新たな機能が追加されたりで、油断が出来ません。Zoomに限ったことではありませんが、私自身の古く凝り固まった頭をフル回転させながら、来年度も少しでもスタッフの一員としてお役に立てるよう日々勉強していきたいと思っています。

尾方 千穂

本機構業務に携わり、地方創生と医療の繋がりを考える事が多くなりました。ここ熊本県の政策で「熊本県まち・ひと・しごと創生総合戦略」を定められています。コロナ禍の昨今、一層「しごと」という事が難しくなっているように感じます。働く事に関しての経験、学ぶ事も制限されてきているのを目の当たりにし、もどかしさも伝わってきます。

また、高齢化が進む中、医療のあり方も注目される所です。特に地域医療の大切さは、身をもって感じる事が多々あります。

どこに居ても、質の高い、適切な医療提供が浸透して欲しいと強く願います。

そんな中、1人でも多く、雇用と医療がうまく繋がるよう、機構を通して様々な発信が出来よう努めて行きたいと思っています。

横手 友紀子

「地域医療とは?」「熊本県地域医療支援機構、地域医療支援センターの役割って?」といった具合に、右も左もわからないような状態でしたが、縁あってここに足を踏み入れた約6年前。

目にするもの、耳にするワード、携わる業務等、そのすべてが初めてのことばかり。不慣れなことも多く戸惑うこともありましたが、1日でもはやくセンター、機構の役割を理解し、運営や先生方のお役に立てるようになりたいと、とにかく必死だった1年目が懐かしく思います。

2年目の春。私の前任者の方が去り、うまくやっていけるか不安でしたが、修学資金受給者の皆さまのサポートや夏季実習、機構講演会・各種セミナーの運営、刊行物の作成、ホームページの運営、先生方のサポート、日常業務等、様々な経験をさせていただくなかで、経験を重ねることで次第に機構、センターの役割も理解してきましたし、気が付けばここで過ごした年数と経験値が自信へと変化し、自分自身の成長にもつながっていました。

それも、これも、ひとえにスタッフの皆さまの優しさと、支え、常に笑いの絶えない職場環境があったおかげだと感じています。ありがとうございます。

最後になりますが、熊本県地域医療支援機構、地域医療支援センター、地域医療・総合診療実践学寄附講座のスタッフの皆さまをはじめ、熊本県医療政策課、学内外の関連部署や地域の関連機関、学生の皆さま等、この6年間で出会い、関わってくださった皆さまに心より感謝を申し上げます。大変お世話になりました。そして、本当にありがとうございました。

皆さまのこれからのご活躍と、地域医療の益々の発展をお祈り申し上げます。

3. あとがき

2021年度は、2020年度に引き続き、COVID-19(新型コロナウイルス)のパンデミックで、世界中で大きな災難が持続しました。世界的に医療の現場もその対策に追われ、熊本県の地域医療機関にとっても、苦悩に満ちた年が続きました。

その様な中で、私ども「地域医療支援センター」の2021年度の活動をご報告させて頂きました。設置から8年目となり、今年度は、私どもの熊本大学病院の「地域医療・総合診療実践学寄付講座」の体制には、「玉名教育拠点」、「天草教育拠点」、に加え、今年度から新たに「河浦教育拠点」も加わり、苦勞しながらも、地域医療に貢献しながら、人材養成をする事が少しでもできたのでは無いかと感じております。しかしながら、今後のこのような「教育拠点」モデルの運営、維持・発展に関し、大きな課題も生じていると感じ、今後の実践的な活動の取り組みを危惧する所も大いに有ります。

今年度も、新型コロナウイルスの影響で、熊本大学医学部医学科の授業・実習も多大な影響を受けましたが、地域枠学生に対して行っている、「地域医療ゼミ」も大半がWebでの縮小された実施となり、更に、現地を訪問して行う「地域医療特別実習」も、最終的に今年度も実施出来ませんでした。そして、入試制度が変わり、2022年度からは、地域枠入学者が5名から8名と増える予定となっていたのですが、次年度の地域枠入学者が1名しかいないと言う今までに無い厳しい状況となっております。一方、県の修学資金貸与制度利用の医師がますます地域の医療機関に出ていく事が増えております。専門医修得のための「キャリア形成プログラム」も提供したものの、キャリア形成の為の義務履行の遅延、更には、ライフイベントや体調不良等の個人的事情等への対応など、県の修学資金貸与制度の課題も色々と浮き彫りになってきた様にも感じられました。

県からの委託業務の1つである男女共同参画事業も、「熊本県女性医師キャリア支援センター」として、地域で働く若い女性医師のサポートをしつつ、県全体で女性医師の活動を支援する活動を、地道に著実に続けております。しかしながら、こちらも色々と苦勞が有り、今後の女性医師支援等の運営の厳しさが危惧されます。こちらも、より一層のご理解・ご支援を賜りたいと願っております。

次年度以降、「地域医療支援センター」及び「地域医療・総合診療実践学寄付講座」が、新しい体制で、良きコミュニケーション・組織運営のもと、引き続き、熊本県とも更に協力して「地域医療対策協議会」の実施・運営や、「熊本県地域医療ネットワーク構想」の遂行に協力し、熊本県の「第7次保健医療計画」の実現にお役に立てる事を切に祈っております。

最後に、馬場病院長・機構理事長を始め、大学内の様々な先生方、事務方等には多々ご指導・ご支援頂きました。また、当「地域医療支援センター」の事務部門のスタッフの方々および、県庁の医療政策課の方々にも、多大なるご助力を頂きました。本年度も地域医療の貢献の為にご理解頂いた全ての関係者の皆様に、あらためて、一層の感謝を申し上げますとともに、次年度もどうか宜しくお願い申し上げます。

地域医療・総合診療実践学寄附講座／地域医療支援センター
谷口 純一

熊本県地域医療支援機構／熊本大学病院 地域医療支援センター

〒860-8556 熊本県熊本市中央区本荘1-1-1
Tel:096-373-5627 Fax:096-373-5796
E-mail:chiiki-iryo@kumamoto-u.ac.jp
HP:http://www.chiiki-iryo-kumamoto.org/



熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

〒860-8556 熊本県熊本市中央区本荘1-1-1
Tel:096-373-5794 Fax:096-373-5796
E-mail:chiiki-iryo@kumamoto-u.ac.jp
HP:http://www.chiiki-iryo-kumamoto.org/dcfgm/

